

特13

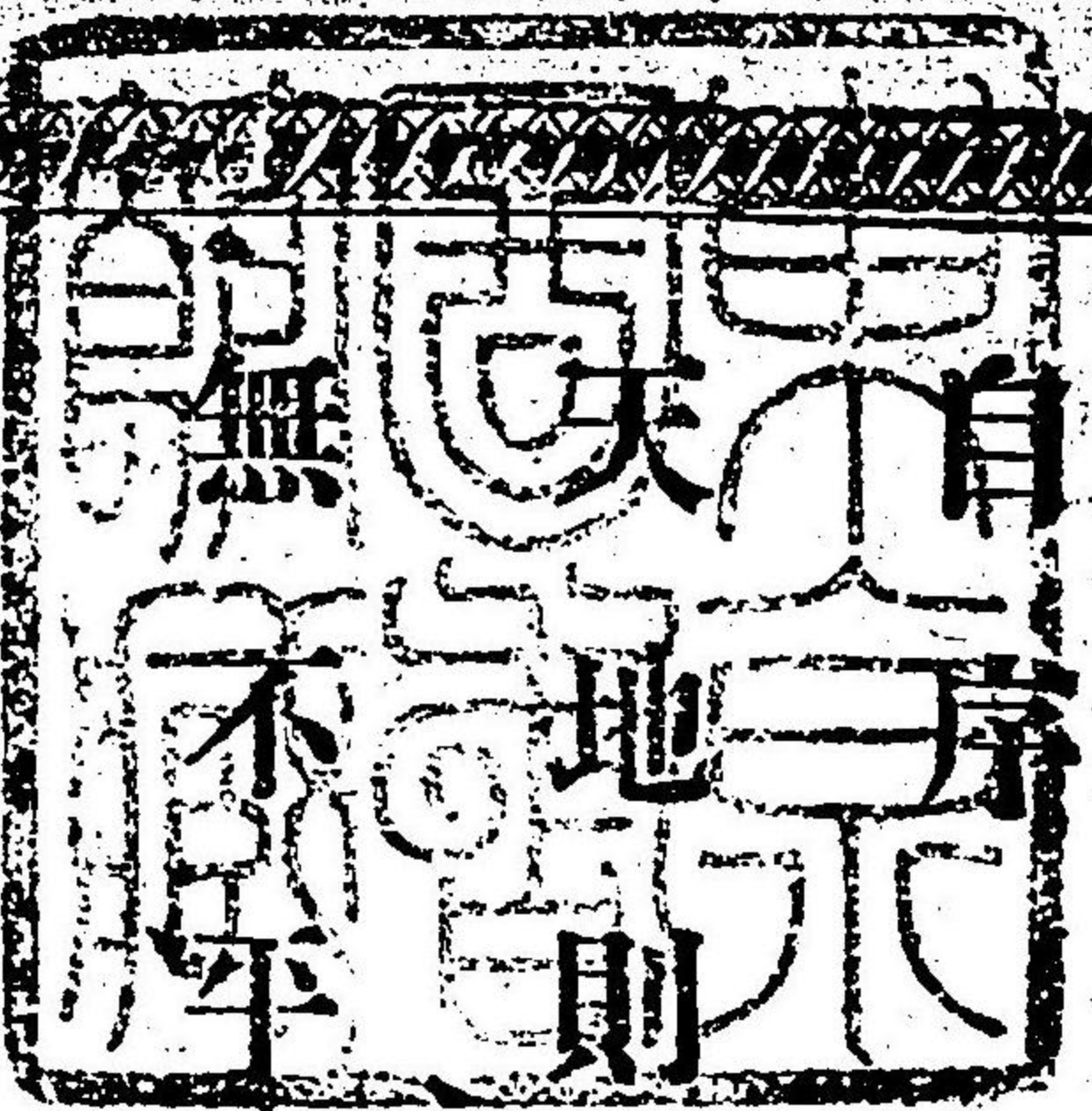
994

天平演説

りきち修

著 戲士居天 睨





No 10387

不平之大塊也何物

韓文公曰物不得平

則鳴物且然况人乎如此戲

編素不過為痴人之藝語其

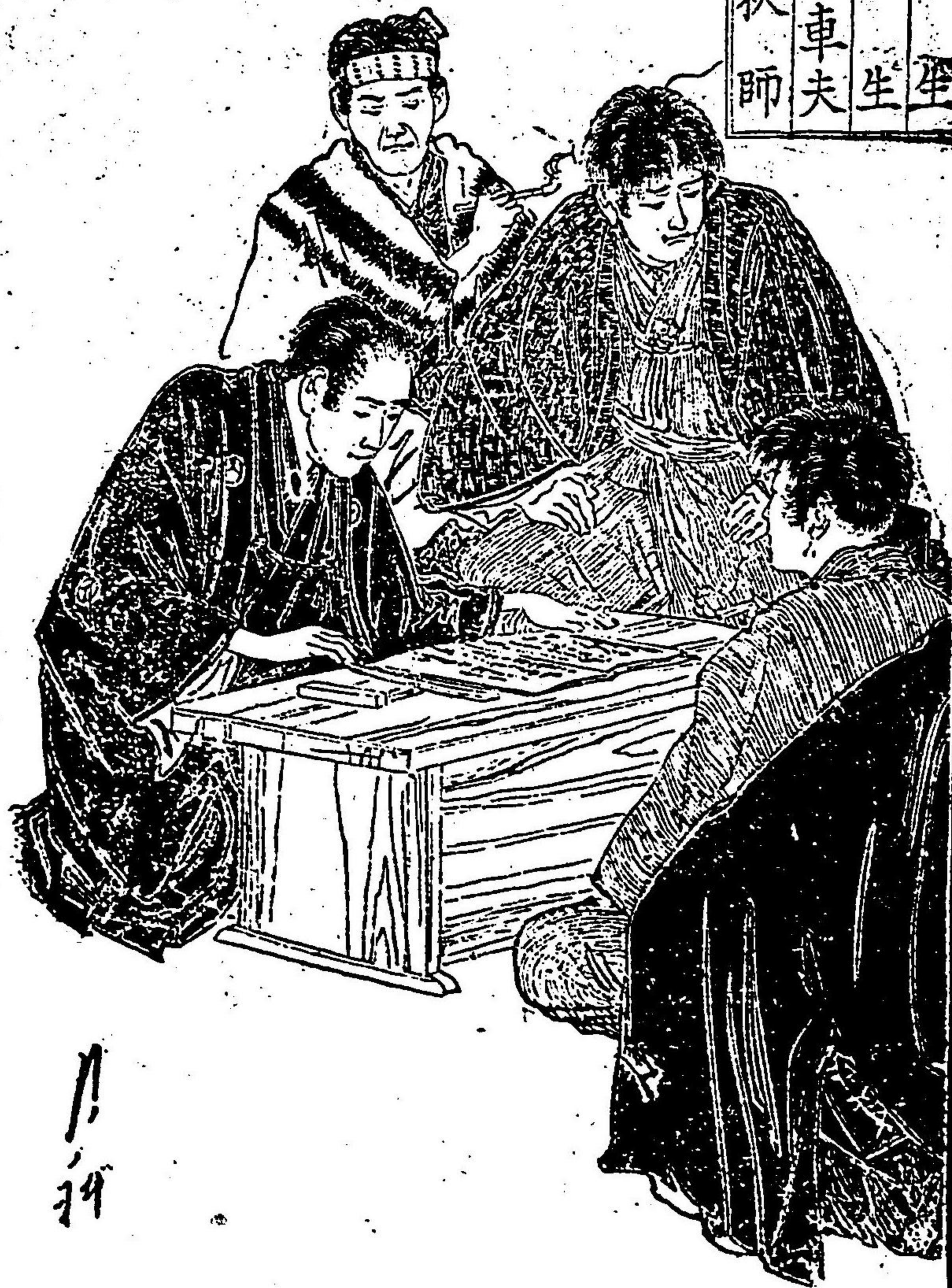


權	百	大	相	乞	相	娼	濟	封	賣
者	姓	工	撲	丐	師	妓	賣	間	者



書生
書生
人力車夫
講師

藝妓
後家
矢場女
卒校生徒
落語家



11
19

鳴與不鳴何足問若夫有不
得平而鳴者忌其鳴而抑制
之則其變不可測矣聊記所
感以爲序

蜀魂吐血之時 晚天識

不平 騰ちきり 演説

晚天居士戲著

4月13
99A

奇々怪々妙々是は不思議ダ君遽かよ壓制の妖雲が去て自由の瑞氣が
現はれたソ成程變々東洋の空氣と西洋の空氣とよ交迭でもあつたの
か知らん君併し中々大胆ぢやナア然う集會條例保安條例などの施行
あるよも拘はらず(言論自由不平演説)といふ看板を掲げるとは亂暴ぢ
やあまげよ傍聴無料飛入勝手次第と記してあるハ、ア解つた僕の考
察では急度遊藝人等の鑑札を受け藝人の資格を以て各々得意の滑稽
話でも演ずるのだらう夫れでも鑑札がなくては許されぬから矢鱈よ
飛入は出来ぬ苦ダ併しそれは兎も角言論自由などハ吾々よ取て最
も好き辻占で夢のような心地がする然り斯ういふ夢ならば黄粱一夢

の間では不満足々成るべく長く夢裡よ長く居りたいテハ、く「ライ
續々人が道入るせ先づ傍聴と出懸けて時と場合よ依たら僕も三寸不
爛の舌を振て慷慨悲憤の……イヤ夫は禁物ダ危険だく「然らば何か
關係の薄いおぼろげな幽霊然とした演説でもして見よう」君するなら
仕て見たまへ取て遇ゆんが僕は俗よ云ふ鳥よ口の端へ矢を据へられ
てから以來喋舌と忽ち痛を感ずるから縦令自由言論演説會でも何だ
か怖ろしいマア僕は傍聴のみよ仕て置かう君平常の活潑よも似合ず
情弱極るぢやないかと二人の白衣卿相今しも淺草なる井生村樓の不
平演説會よ入ればコハ抑も如何よ不思議なる裁臨監のお役人様方も
見へざるよぞ二人はますます不審晴れず怖々ながら傍聴席よ坐して
四方を見廻せば聴衆無慮幾千といふ數を知らず實よ立錐の地もなく
頃ろ英國の大政事家グラフトストーン氏がノッチンガム府よて愛蘭自

治案の演説をされしも斯くもちんと想像せられたり此時聴衆は如何
なる辨士が出るかと目を拭ふて待ち居しよ頓て現れ出し辨士は唐
棧の袷よ薄茶色の絹羽織を着て右の手よ張紙の扇子を持ち演壇をバ
チ／＼叩きて聴衆を拜せしさまは中々場慣れたものと見へたり辨士
は已よ口を開きて

「今日ハ政談の大岡さばきのみよ限る歎といふ題よて一席辨
じますが一体吾々講釋師社會で是迄で辨じて居りますものは多く
は關ヶ原合戦だとか又は大坂御陣川中島合戦か或は伊達騒動宮本
武勇傳とかいふもののみ講じて居りましたが是は封建尙武の世よ
適したからでござりませう然るよ今日駿々乎として人智發達の文
明時代よ當て猶ほ野蠻時代よ適せしものを講じますのは理化作用
の幻燈會よ向て怪談の眞實を説く如く甚だ愚かなる次第ではござ

りませんか宮本武藏の妖怪退治や鍋島の猫騷動などは今日三尺の童子も信を措くものはなからうと存じます併し天保年度の人間のみ聴すので歐米の風も吹れて明治の新天地も生れた今日の人間も聴かすのでないといふ事なら仕方がない譯ですが左なくば従前の種本を改良して又歐米の新説を輸入しなければ今後喝采を博することは出来まいと思ひます彼の英佛の革命や瑞米の獨立なども我が國の何々合戦などを講ずるよりか耳新らしくして我が國人の腦裏に新主義を注入しますから少しは益も成り又時世も投ずるかと思へますがそれは政治上も關することがあるから其筋より内々お諭しがあつたと云ふ人がありましたが政治上も關することは差し止めらるゝとならば大岡政談も亦政治談なれば差し止められなければならぬ筈です然るゝ大岡政談のみは許さるゝとは一向合

点の程かぬ次第では御坐らぬか大岡政談は徳川幕府の事も係ることと別な差問がないと申すから他國の政治を談じたからとて毫も差支のない理で御坐いませんか況して他國の事ならば反て大岡さばきより關係が薄すからうと思ひます併し歐米の政談は維新以來我國へ輸入し來たもの故取りも直さず吾が國の政治談と全じものだと附會さるゝ人がありますせば口を箝むで喟然たるより外致方はありませんが決して賢明なるその筋のお方々より箇様を曲した理屈を以てお諭があつた譯はありますまいノウウくヒヤクヒヤク論者殺すべしと聴衆が騒ぎ立るゝ辨士は例の扇子をバチ／＼鳴らして之を静め

諸君く是はよくも政治などを辨へぬ吾々社會故若し詭激の辨論をなして無智の人民を煽動し或は教唆するような事があつては治

安ふ妨害ありとの御主意で御坐りませう併し乍ら吾々とても一概
よ不學無識よして政治の何物たるを知らないとも限りません随分
相應の學力もあつて政治思想を有して居るものが御坐います然る
よ是等の講釋師が政談と云へば大岡政談より外よないもの、よう
よ心得て歐米各國の政治上の美談奇談を辨じませんのは何處か憚
る所があつての事ですか歐米の政治を話するよ何の憚る所があり
ませう「ヒヤ〜」若し又歐米の事蹟を演ずるは憚りありとさせば
抑も又歐米より輸入し來る書籍より禁じなければなりません書
籍は直接よ人よ向て喋舌させんでも人の腦裏よ侵入しますから口
頭より反て感が烈しからうと思ひます然らば口頭よては妨げあり
書籍よては妨がないと云ふ理は御坐いますよ尤も今回出版條例
よ因て風俗を亂し又は治安よ妨害あるものは外國の書と雖も販賣

を禁ぜらるゝようよ成りました既よ米國桑港よて發兌したる新日
本などは内地發行を禁じられましたが併し今まで發行し居るもの
は別よ差止めよありませんから是等は治安よ妨害なきものと
心得て讀みものよしても宜からうと存じます若し今まで發行の書
籍も禁ずると申すなら人々の腦裏よ藏つて居る無形の書籍は如何
しますか勢ひ人々の腦裏を碎て奪ひ去らなければなりませんよ是
は儒者を抗よして書を焚いた彼の有名の壓制家秦の始皇その人でな
ければ逆も斯る暴逆は致しますよ況して我が賢明なる廟堂の方
々は仔々として人民よ自由を與へんとし給ふ位ですから決して只
今述べた如き慘狀は夢よだもなきこと、思はぬものは恐らく天下
よあるまいと信じます

と開子よ乗り扇子を以て頼りよバチ〜と演台を叩きけり「ライ國枝

君流石の手前もので好く舌が廻るぢやないか併し彼も舌が硬張と見
へる家富君彼が屢ば水を呑むのを見たまへ成程矢張舌が自由なら
ぬナ

今改めて申すも及びませんが政治思想の如きは國民一般に有し
て居らねばならぬものであります若し人民として政治思想に乏し
かつたなら何程善美の立憲政体が立ちましても空憲虚文に属しま
せう然らば政治上に關する話しは講釋社會にも追々お許し成りま
せうと考へます併し是は吾が國の政治談でありますが歐米の政談
即ち拿破崙の政蹟比斯馬克政略などは遠慮會釋なく大岡政談と同
じく辨じましても宜からうと思ひます然るに吾々仲間よて戦々兢
々として只今までの讀みもの、外一歩もその範圍を出でません
の矢張之を辨ずるの才學がないのでせうか「アウ」を辨た別は深い

譯があることではが私共講釋師社會は海峽東洋未だ之を知りませ
ぬ今我が國は目蔽ひれ舌縛られて居るべし惡むべき幕政と違ひ出
版は新聞は集會演說等に至るまで充分自由を與へられて居ります
が隨を得て蜀と望むの人情ですから甚だ悠遊深ふ御坐いますけれ
ど尙ほ一層言論の自由を與へられんことを希望致します
ヒヤ／＼と家舌耕師としては中々氣概がある子國さう所謂鉄中の
錚々たるものだ君今度の肥滿辨士だ成程豚や布袋も三會を遊ばさう
宜い加減は糞船のたしは撤去して貰ひたい然りし又彼が幕政へ
往くと違ひ此の道壇の上は羽織を肩に掛けて居るは不体裁ぢやない
いかと評し合ふて喋りたり辨士は最も優然としての體面通分の
已は相撲は鬚鬚固有のもの非すと云ふ題よて演する幕政ぢや
三倍で昔より文武軍の兩輪の如く相俟て離るべからざるものと

してごんす去れば眞の黄金世界と成て入々互は相親愛し毫も侵犯
 することなく法律も無用となり兵備も廢止するような極樂世界と
 なれば兎も角否ちされば文のみよて武なければ此の弱肉強食の社
 會よは一國の獨立を維持することは出来ませぬ此の相撲は入々皆腕
 力の争闘よして野蠻社會の遺物だと輕蔑されますが決て左は經
 典すべきものでごんせん抑も相撲は古は戰場組討の方よて武藝の
 一と云て常々男子の嗜て習練した技で御坐りました彼の野見宿禰
 の事は人口は増減して雖でも知て居りますすが聖武帝の御宇よ至て
 始めて諸國の力士を徵して朝廷よ於て相撲の節會を行われ其後此
 の式は廢れまじたが武門よ在ては尙ほ之を爲すもの多く高山重忠
 河津侯野を始めそれより下りて織田豊臣の世迄至てまた遠々盛ん
 よなり仙台中納言政宗卿は畿中にて庄井利勝卿臣を相撲をされ共

伊直孝行司もされ然じたと申すが以て當時相撲の盛んなるを見
 るよ是り相せたり去れば當時相撲の擊劍柔術と同じく武術の一であ
 りたよ違ひありません然るよ維新以來歐米の文物が此の日の本へ
 輸入せまじてより文道興つて武道衰へ從て相撲の如きものは野蠻
 のものと罵られて悲哉竟よ裸体手踊の名稱を下さるゝよ至りまし
 た諸君よ果して此の相撲が腕力比争闘野蠻固有のものよて文明社
 會よ行はるべきものでごんせん歎文明諸國が互國公法のあるよも
 拘はらず動もすれば互よ争闘して勝敗を武力よ決するは野蠻の遺
 風で御坐りませんか人と人と角闘するは野蠻よて國と國と角闘す
 るは野蠻でないといふ理がごんすかヒヤク去れば此の十九世紀
 の世の中は東西洋を問はず決して文明とい申されません且つ人々
 が文明と稱する歐洲よて社會の木鐸たる學者或はその耳目たる新

聞記者などが若しその論説の是非決まされんときは忽ち果状を送
 て決闘を試みるさうです彼の有名なる佛のガネベック氏も或る新
 聞記者と決闘をしたと申さすは是などは野蠻の遺風ではござんせ
 んか然るよ西洋生嚼みの先生方は何でも蚊でも西洋でござれば
 好いようよ心得て矢張り此の決闘も文明國必要の物のようよ言ひ
 まして其説よ人々が舌戰口論を爲すとき一人は之を是とし一人は
 之を非とし互よその見る所を執て下りぬときは是非を決する能は
 らず故よ之を腕力よ訴へて事の曲直を決するより外なし彼の一國が
 外邦よ對するも常よ道理を以て争ひ道理を以て決するものよあら
 ず遂よ干戈よ訴ふるよありすや云々とも左も理屈らしく論じます
 腕力を以て理否を決するよ至りまは野蠻草昧の世と異りあり
 ます此の決闘賛成論者の如きは眼を狂暴論よ以て理るよ足らぬも

ので御坐りませ然るよ人々が決闘は文明國諸國よ行はる野
 蠻のものでないようよ思ひます此の決闘の如きものを野蠻と申
 さなければ野蠻と云ふものはありませす併し腕力は社會の武氣
 を養成して文明を進步さすものです此の決闘の如く自他を損害する
 行爲は決して文明を進步さする道具では御坐りません此の相撲の
 如きは自他を害せずとて人々よ勇氣を生ぜざるものでもすけれど
 決闘の如きは自他を害して社會の秩序を紊亂するもので御坐りま
 す然るよ決闘を野蠻と云はすは反て此の相撲を指して野蠻とい
 ふは道理よ違て居りませう今や弱肉強食の社會よ立て徒らよ文弱
 よ流れ悲哉一國を維持すよき勇力膽氣は野蠻として擯斥せられ
 ます

謹啓 中々甘味味の野蠻風よ似合す意氣慷慨と云ふべし

ソウ、彼が膨脹せる腹中よは悲憤が満て居る哩

昔し河原乞巧と卑められた柔弱な俳優などが勢力を得て反て已達より上位を占めて何々講義などと稱せられ文明の道具として貴ばれますが是等は冠履所を異ふすと申すのでござんすソウくロヤく借て此の人類は御存の如く物よ接し事よ觸れて感動し又感染しますもので御坐ります縦合は人々が劇場よ往て道行などの狂言を見ませば自分も亦斯の如き色男色女たらんと思ひます又相撲なぞを見物じませば勇壯活潑ななりて自から腕を振するようよ成りますは人類の情性で御坐ります故よ演劇の如きは人心を腐敗して情弱を導くものよ相撲の如きは人心を活潑よして一國の元氣を奮起せしむるものです嗚呼今や英虎西よ窺ひ魯狼北よ踞て孤立せる吾國が斯く柔弱な流れ一朝國と國との立合となり急よ士俟際と追ら

ば逆も踏張る勢は多りますまい然らば殆んど虎狼の香爐所となるも計り知るべからずです諸君此の如き危急の有様を見ながら遊治郎と爲て道行を試みんとし玉ふか將た勇壯活潑の氣を養て國家の干城となり給ふか如何でござんす
と鐵の如き拳を以て演台を叩けば礫然として演台も爲よ碎くるかと思はるを辨士は願みすしてツンツンと壇を下れば拍手喝采の聲天地を震動するかと疑はれたり已よして聴衆皆を此の次は如何なる辨士が出るかと目を拭ふて待居しよ頓て徐々として演壇よ登る辨士を見るよツプシの島田鬮は傾きてその位置を易へ油染たる緋鹿子の手掛は解けて鬮の方へ垂れ洗ひはげたる二々子織の衣服よ唐綿緋と綿毛綿子の腹合の帯をしめたれど是もその原色を辨じ雅き變色ものなり容貌は麗ちすと云ふよ多らねども色青とめて少しく目の凹みた

る所よては美よして艶なりとは賞賛しがたし那の辨士は臍面なく聴衆を打眺め乍ら

皆さん私は淫賣と貴夫人と品行孰れか正しきといふことを演説し
まして此の不平演説會よ蒞まれた聴衆よ向て私が不平を鳴します
から宜しくお察し被成て下さい皆さん御存でせうが私達の業即ち
異名辻君夜鷹連摩舟滿仲提重地獄と稱へて薄暗き所よイみ行人の
袖を引て一瞬の春夢を賣るものでして賤業中の賤業として婦人社
會より排斥されたもので御坐いますが是は固と金錢の爲よ肉体を
玩弄するからであります……けれども金錢の爲よ肉体を玩弄さ
れますも此は妾達ばかりではありません妾達が陰かよ此の業を致
しますものは幾分か廉耻を知て居ますから隠れてするのでした然
るは娼妓などは公然姪を賣て少しも耻ぢないではあるまいせんか是を

どは妾達より一層破廉耻なものかと存じます夫れですのよ娼妓を
以て私達よりか品格の好いようにしてありますのは如何な理由が
御坐いますか其容色の美なるよ因るのでせうか將た衣服の麗なる
よ因るのでせうか否々唯だ税を納むると否らざるの点よあるの
です然れども税を納むると否らざるとよ因て決して其品位を上下
する理はありません只だ其廉耻を知ると知らざるとを以て品位を
定むるこそ至當かと思ひますですから娼妓淫賣の上下優劣を論
じますのは即ち五十歩百歩ですが那の權妻と云ふものよ至りまし
ては私達より餘程上等のようよ成て居ります併し金錢の爲よ肉体
を玩弄されまは私達と少しも違ひありません只だ權妻は一人の
お客と枕を交はし淫賣は數人のお客よ接するとの違ひですが私達
だとして多くのお客と日夜毎よ枕を交はしますのは好ましくあり

ませんが妾達の業として一人ばかりのお客では親兄弟を養ふこと
 が出来ませんからです……皆さん考へて御覽なさい誰だつて今意
 氣な客よ出た跡で直ぐ野暮な人をお客よするのは厭嫌ではありま
 せんかそれを忍びます身はどの位おつらく悲しいか知れませんが併
 し仕方がないから我慢するのです決して私達が多情なわけではありません
 ませんヨ然るよ變通知らずの道徳生憎み先生達は鹿爪らしく正業
 よ就けなぞと云ひますが中々弱き女子の業では裁縫かマツチの困
 を貼る位の事です裁縫やマツチの函位の事では一家敷口を過すこ
 とは出来ません斯く論じ去り論じ来りませば私達が業は決して無
 理とは云へますまい又強ち私達が品行の悪いのだとも云へません
 子……皆さん私が羨むでの事でありませんが彼の權妻を御覽
 なさい二等親と崇められ一等昇進すれば忽ち奥さまと成り貴夫人

と尊稱さる、即ち一等親の候補者でせう然るよその品行の悪いこ
 とは擧て敷へられませんが或は髮殿の眼を掠めて馬丁と通じ又は權
 那を欺て俳優と交るなぞは常々のことで怪むよ足らぬ位よ成て居
 ります又その候補者がいよく貴夫人と成上ても猶ほその浮氣は
 止まず「ハンシーポール」や「舞踏會」などの醜聞は屢ば聞くではあり
 ませんか是などは徒よ品行の悪いの勿論法律よ問ふべきもので御
 坐います「是は通常貞淑乃夫權妻上りの貴夫人等は已の情慾より法
 律を犯してさへ世間では誹議の罪を惡れてかあまり攻撃するもの
 がありません而して私達が已の情慾であく止を得ずして賤業をな
 しますのは少しも酌量せず酷よ詆罵されますが私は甚だ不平でな
 りません今申しました通り私達が賤業は糊口よ迫て心ならず致す
 のですが那の貴夫人方の醜行は止を得るので御坐いますか皆さ

ん如何思ひます「ヒヤ〜」

と説て演壇を下れば「ヒヤ〜」の聲暫時鳴も止まざりける此の時「滔々たる天下皆吾が徒なり」といふ演題を掲ぐるや否を現はれ出し辨士を見ればその打扮三ツ所紋の黒羽二重の羽織も同じく黒羽二重の衣服を着て鶯茶の博多帯をしめ右手も扇子を持ちて半ば之を聞き演壇に登と忽ち一聲高く叫びて

イヨ色男諸君……好男子……隊長ハツテな事で……

「イ君彼奴は何ぞ餘程變りものだ」と君知らんかな那が即ち野太鼓サ
「フン半ば顛狂して居るようダ」

抑も吾々が職務たる幫間とイツバ紅裙緑酒の間も居て其の興を幫助するものでげすから才子通人は一日も吾々なくんば娛愉快を盡すことは出来ません去れば幫間の通人社會も取ては魚が水も於る

と人が空氣も於ると全じく少時も缺くべからざるものでグス故よ
その勳功よ因てお羽織頂戴烟草入結構といふ寸法も參るのです然
るよ世間の子曰連或は頑固黨は吾々を以て太鼓〜と蔑視し甚し
きよ至ては狸などと罵り諂諛主義を行ふもの、如く思はれますが
是ぞ解せざる理でグス吾々が本業は只だニューバアなどとたゞいも
なき誹謗を以てお客の機嫌を取るものよて決して客の意を迎へ之
よ諂ひ諛ふて田舎漢を指して通と呼び腹裡無一物のお巖を稱して
博學多識の大政事家などと吹き立るものではありませんテ然るよ
近來は往々幫間社會がその本分を忘れて諂諛主義と化けお巖の塵
を拂ふようよ成りまして大よ吾々社會の面目を汚しました併し幫
間社會のみならず兎も角滿天下の人が吾々の仲間入を致しまし
たは長嘆息の至りであります「ヒヤ〜」那の權ちやんが檀那の鼻毛

を引張て眞實よ壇那は浮氣もんですよ悪らしひとか何とか怒むが如く媚るが如く幫間社會の職權を侵して丸帯か弁の請求などはその害瑣々たることでゲスが那の苟も男一疋よ生れ乍ら權門よ踞踏してお鬚の塵を拂ひ而して高位高官を得るよ至りましては吾々が總頭やお羽織頂戴とは事違ひ社會よ損害を與へますは幾何か知れませんテ「ヒヤ」

「中々能辨だぜ」ナニ多辨と云ふのだ併し夫でも彼等よ似合ず慷慨心がある中が頼もしい

夫れ吾々がお羽織頂戴は酒興を添へ愉快を覺へた功績がありますから其報酬と思へば敢て不義だの賄賂だのとは云へませんが那の上官のお髯を拂て高官を占るのは何の功績があるのでせう「ヒヤ」是はお髯の塵を拂た功勞があると申すのですからお髯の塵を拂

つて自分よ愉快を與へて呉れたと申すなら自分が囊中を探て夫々總頭を與へて然るべき筈でゲス然るよ其總頭たる高官の給料は吾々人民より取り立た税で見ませば所謂人の頓鼻揮で相撲を取る一件で甚だ狡猾極る舉動では御坐らぬの而してその總頭お役人は素よりその學識才藝を以て進んだものでありませんから唯その位よ備るのみで伴食宰相が多ふ御坐いませう是などは俗よいふ祿盗人と稱するもので租税の盜賊で御坐ります「ヒヤ」斯るお役人が象進されましては人民は實よ命惑千万でゲす今吾が國などでは藥よしたくもそんな事はありませんかお憐りの支那朝鮮又は幕府時代よは只今申た如き随分幫間よも劣る御人物がお鬚の塵を拂たばかりで高位高官を獲たものがありましたそうです去れば吾々などは其時よ在たなら餘程よき官位を獲る資格を有して居ると申ても敢

て過言ではありますまい(大笑)开は兎もあれ諸君の中よは或は吾々
 社實のみを輕蔑して玩弄物視し吾々より一層輕蔑すべき上等の玩
 弄物よ對しては憚々焉と畏縮して其鼻息を仰ぎ乍ら吾々よ對して
 の畏縮せざるのみならず反て之を蔑視し給ふハコレ如何よ余輩未
 だその説の在る所を御存なしでゲすバア
 ロヤク「流石辯間は辯間だけあつて吾々が頤を解き臍をえぐつた哩
 一忽ち慷慨忽ち談話よく罵りよく笑て人を玩弄したナア」然り玩弄物よ
 玩弄さるゝとは反對だハ、今度辨士は何者だらう出た、
 一那の
 縷々縷々たる敝温袍を着て憔悴枯槁として現はれた有様は實に感然
 だナア「見給へ彼が襟裏より半風先生が運動して居る必ず王猛氣取で
 虱を捻て天下の大勢を論ずと云ふ洒落だらう」ヲ、演題が出た何だ…
 …(乞巧)ハ人よ食を求むる權利あり果して奇論だと罵り合ふを辨士は

恨めしきうよ脱み乍ら

壇那方は私達とは殆んど人種でも異て居るよう御坐います。が此
 の世界へ生れて来たときより綺羅を着飾り吾達は此の如き縷々を
 纏ふて生れましたか「ノウ」諸君は胎内より財産を有し爵位を戴
 て居りましたか誰れも生れながらよして富貴のものはありません
 唯たその父母が世襲の財産を有して居る故その身も富貴なのでせ
 う抑も造物主が人を此の世に生しますのは貧富貴賤の別なく平等
 均一よ自由幸福を與へられたので御坐います然れども世を經年を
 歴るよ從て人為作用より斯く貧富が別れ富者いますよ富み貧者
 はますく貧しく成りましたので御坐います故よ全く此の社會
 よ生れながら富家よ生れましたものは幸福で御坐いますよ貧家よ
 生れましたものは不幸ではありませんか造物主の意は深遠よして

うが近頃英國よては吾々社會が多人數相集り「職とパン」を配せる旗を押し立て「トランプ・ガム」の廣小路を會して示威運動を試み夫よりますます過激に涉り遂に警察官吏と激戦及び倫敦の一騒動を起したてはありませんか羅馬帝國滅亡の前には矢張り賤民が斯る舉動及び千七百九十三年佛國巴里も全様の企をなしたと云ひます彼の現今歐洲よて尤も恐るべく忌むべき社會黨虚無黨の如きも乃ち貧富を平均して財産の分配を謀るものでありますから其方法手段の兎も角その主義に至ては決して排斥すべきものにはありません吾黨よ於ては大喝賛成致します然るに社會黨虚無黨とさへ云へば一概に破壊主義だと心得て蛇蝎の如く思ふ人があります私は二黨の精神は決して左よりなるものにはありませんと存じます併しその徒が儲けなどの爲に壓制せられその反動よりして過激

の舉動を爲しますのは是れ當然の勢で御坐ります「ロヤ」然らば此等の徒を未然に防がんとしますよは吾々貧民よ職業を與へるか左なくば之を救恤するより外に策はありますまい又人民よても吾々社會を救恤するは富民の義務かと思ひます何となれば造物者は人々よ生活すべき丈けの物を均一に與へられたのを人為作用よりて一方よ多く奪ひ取た故斯く貧富の別が出来たので御坐いますから富者は徳義上又理論上よ於て貧者を救恤すべきものです今一步進んで云へば富者は貧者より奪ひ去た所の物を返すべき義務あるものです「ハック」斯邊鐵氏が權理論「ノルスマン、マレー」よての乞丐が救助を受くるの權理ありと思考し居ると云はれましたが是は左もあるべき事と思ひます併し生存競争の理よ因て優勝劣敗上より勝ち得たるものだから人を救ふべき理なく又人を踏み倒

志ても已れさへ利あれば生存競争の理も適ふたものだと思ふ人
 對ては勢ひ非常手段を用て吾々が權理を暢張しなければなりません
 まい吾々は願くは諸君が社會黨虛無黨を鑑みて吾々をして非常手
 段を用ゆる如き不幸無からしめんことを希望致します
 と演じ了れば悲哉ノウウの聲のみよて一人の賛成者なかりければ
 乞巧辨士は不平面に現はれヒヨロロとして僅かゝ演壇を下りしが
 見るも哀れ取果なき有様なりき此時香水の香芳然として聴衆の臭官
 を穿つよ人々眸子を定めて之を見れば年の頃の十六七よて東髪は白
 薔薇の釵を挿して喉はハンケチを巻き大編の南部の小袖は黒羽二重
 の羽織を着て赤色の靴下を穿きたり君那の美麗貴女を見給へ成程願
 るものだどんな演説をするだらうソラ演題を掲出したゼイヤ是は歌
 して居れん自由結婚を論ずと云ふ題は君是こと聽きものぢや僕は自

由結婚大の主張者だが那の貴女と全説とは僕よ於て悦ばざるを得ず
 サ定めて彼も僕の如き才子と自由と結婚したいと云ふのだらう……
 「自負も亦甚しい君即ち及ばぬ戀の片思ひ堅固云へば非望を覬覦する
 と云ふのサ」と頻り喋々して辨士の顔のみ見詰居るを辨士は左もこ
 そと自慢顔して

満場の聴衆諸君よ妾は試よ諸君よ向て此の社會よ生れた人類か一
 日も之なきときは其幸福安寧を保すること能はざるものは何物で
 ありますかと質問しましたら諸君は必ず一齊よ自由と叫び給ふと
 信じますヒヤ／＼諸君人生の幸福を保持するものは此の自由の外
 よは何物もありませんまい故よ言論自由と云ひ集會の自由と云ひ自
 由貿易と云ひ事々物々自由ならざれば不快を覺へ苦痛を感じます
 から一も自由二も自由と云ひますけれども諸君も知らるゝ通り此

の自由とは吾儘勝手の絆ではなく人々の妨害ならざる限りは自己が權理を張り通すので御座ります是の爰で妾が事奇らしく自由論を説きませんでも諸君が百も御承知否を諸君が常々主張する所だと思ひます然るゝ獨り結婚の自由に至ては餘り唱説する人ありません是れ妾が大疑ふ所です……抑も人生至大至重の關係は男女の間ゝ在て合へば利あり合はざれば害ありて其合と不合とより生ずる所の利害は一身一家に關し又社會一般に關して廣大無邊のものです然らば男女嫁娶の事は互々意氣相投と是ならば終身苦樂を共々まようと云ふ即ち好いた全志でなければ琴瑟和合とて一家の圓滑を望むことは自來ますまい左すれば從來の壓制結婚を廢して自由結婚に仕なければ成しません是まで吾國では結出と稱へて垂髻の頃より親と親とが成長の上は結婚さすべしと約束します

が是は道理と訴へ人情も開くでも居ります好しその子が成長して雙方意氣相投じませば僥倖でありますけれども若し相思み嫌ひましても仕方なく結婚致ます故に斯る夫妻は互々一生を不快に送り夫婦の情愛なく往々家内の風波は絶へません壓制結婚の害は既に此の如く人生の自由を奪ひ幸福を害ふは此上なき事と洵に殘酷極る仕打で御坐います之に反して英國などは至て結婚の自由を國で假令親々が氣入りしましたとて其子が承知しませんければ決して結婚させることは出来ません又親々が承知しませんでも本人全志が意氣相投して結婚しようと思へば寺院或は婚姻登録所へ往てその証を留めてさへ貰ひませば親々が嘴を容れて苦狀を鳴すことは出来ませんとす是は左もあるべきことで吾が國などと較べると大變を違です斯く自由結婚の行はるゝ國に生れた少年小女は噫

老婦は御坐ひませり實は羨まじい話であるませんか「ロヤ」
 只今申たは變則の結婚ですが正則の結婚でも當人達が互に意氣相
 投し親達も那人ならば嫁は遣らう貰うと思ひませば親々が先づ友
 人として交を結すば互に手を携へて夜會をせよ遊み又花見遊山
 などよも二人して出懸け夫れから愈々大禮を行ひますそうですが
 其既よ友人たりじとき既よ當人達は那の「ロヤ」若し之を屢
 請結婚の日本人なぞよ云はせましたら私通とが穴隙を鑽るとか誹
 謗するよ相違ありますまい東西人情を異するとは云ひ乍ら斯くも
 人生の幸福よ雲泥月露の相違があるとは實よ長嘆息の至りです妾
 は自由結婚論の勢力なきよ就きまじて漸く反對論者の心事を窺ひ
 ますよ彼等思ひ自由結婚が果して得はるべきは昔々の如き事
 々たる事の中より顔を出せば醜男等は自分では醜か醜夫と思は

母が知れませんが到底嫌嫌たる小女を擲するとは出来まいと
 嫉妬心を起すので事かと疑ひます左なくば自由結婚の正理よ向て
 攻撃すべき敵はあるまいと思ひます「ロヤ」又自由結
 婚を許せば日本なぞよて充分の教育が行き届かぬから風俗を亂
 すとて尙早論を唱へる人がありぬが假設論れよても互に相信じ
 互に相愛し一生幸福を共にして俗者の樂りを結ぶべきと意氣相投
 じた全志ならその結婚を自由よとせたとて強ち淫逸よ流れ風俗を
 亂すよ限りますまいアすから妾などは假令へ親が許すまいが人
 が許りませうが妾が愛する所の人よして又妾を愛する福ちやん共
 人の如きもの……
 と云はんとするとき滿場破るが如く淫奔阿魔奴と叫ぶものあれば此
 の畜生と罵るものありて中よは煙草盆などを擲付る亂暴獨語よ流石

の辨士も顔赤めこそくとして退きける「アレタもの中々容易よ自由結婚をぞが許せるものか若と許したら何んを醜態を現はす知れない」君は先刻自由結婚を主張して居ると云ふたではないか而して彼の辨士が福ちやん云々と云ふまでは聲を枯してヒヤ／＼とのみ叫び乍ら忽ち主義を變じて反對説を唱ふるのは矢張り辨士が所謂嫉妬心より起ての事ダナ君は大層彼を回護して僕を攻撃する子君いくら彼を責め彼も媚びても無益だ斷念し給へ「それは君自らが事だ」と例の如く二人の書生の罵り合ふて居たりける次よ現はれ出し辨士は何者ぞとそめの中々意氣な拵へなり辨士が舉動は餘程の世故よ通せしさまと見受らる順て辨士は聴衆よ向ひ

私は爰も掲げてあります通か相場師は正業はあらざる歟と申す同

題よて卑説を述べ諸君の聽を煩はしませぬが私は性來甚だ訥辨で御坐いますからノウ／＼充分私の説を吐露することは出来ませんが所謂意餘りありて辞足らすとか申すの故宜しく御酌量をお願います

借て私共の營業たる相場は人々皆な一六勝負即ち賭博の如く見做して正業でないようよ云はれますが果して此の相場は正業でありませんか若し相場が正業でありませんければ天下の商業は悉く正業でありませんナセ相場が正業でなければ天下の商業は悉く正業でないかと云ふ此の相場師の自己の經驗と才智とを以て明日は風吹くべし或は天氣ならん去れば賣る方利よしして買ふ方損なりとか又の買ふべくして賣るべからずと推測して之を賣買しますものですから一寸賭博よ類似して居ますけれど決して之を一六勝負と見做ことは出来ません何商買でも此の物品は必ず騰貴すべく彼の

物品は下落すべしと各見込を立て買込み又は賣拂ふは商業上の原則でありませう何商業も此原則に反しませば必ず失敗を取ら定て居ります相場師ども此原則に因る者ですから決して不正業だとは云はれませんが若し之を不正業としませば目的を立て買買するものハ皆不正業と云はなければ成りませんロヤクは是も因て之を視れば商業の幾分か賭博の分子を含蓄して居ると申ても強ち妄論とも云へぬ有難いロヤクは彼の歐羅巴人が公然博奕をなして取て恥ないのは職として此の理に由るので御坐いませう

「君那ハ相場師が経済論を擧げ出したせ併し一應理なきもあらざり「イヤ那の空米相場の如きはその各々つて實なきものだから通常商業上の掛引とは同一の論に及ばん彼は希臘の犬儒學派が支那の公孫龍連で頻りに歐白鐵を嗜むる如き極端な論議をなすは誠哉

「エヘン今一步進を論議せしは商業上の本を多の政界上は其でも賭博の性質を含有して居ると申すでも敢て賭博ではありません何となれば甲の政黨と乙の政黨とが政權を争へば互よ之を押倒さんとして種々の策略を運らじ其勝負を決するではありませんか是等は政權といふものを注射で勝負をするので御坐います是は歴史よ徴して昭々疑ふべからざる事實です又一步譲て相場は賭博よして危険なものよて破産の憂があるから之を禁じなければならぬと致しませうが然らば政黨の賭博即ち争ひに至りては其國の安危も關係するものですから一層危険なものですよ「ウハハ併し政黨の争は則ち公よして所謂君子の争ひなれど相場の如きは私よして一己の利を射るものだと云ふ人があつませうが政黨の争とても決して公なりとのを申すことの出來ません是は少くも政論よ意を用ふる人

皆御存じですが彼の文明を以て鳴る米國などよても自黨が勝を
 占めんとして卑劣手段を用ぬ投票などを賣買すると云ふことは往
 を承て居ります是などは私といふより外にありません然るに世人
 は相場のみを賭し誇りて一六勝負なり賭博なり徳義を棄し風俗を
 壞り社會よ害を爲すものだと論じられますが若し相場が徳義を棄
 し社會よ害を爲すなら政黨が公正の争を爲さずして私を用ふるは
 徳義を棄し社會よ害を與へぬのでありませうか「ウー」是等の政
 黨は公共の益を計るよめらず又輿論を以て勝敗を決るよめらず
 陰險手段よ因て勝負を決するのですから真正の政黨とは云われま
 せん併し堂々たる真正の政黨でも互に政權を賭して自黨の主義を
 行はんとしまする点は賭博の性質を有して居るではありませんか
 去れば已が主義を達し目的を貫徹ん爲す争ふものは幾分か賭博の

分子を含蓄して居ります故に相場を賭博なり不正業なりとしませ
 ば呉服商も唐物商も盡く賭博よして政黨の如きは最も賭博の大な
 るものです(喝采)

此時辨士は一層聲を勵まして

然らば滿天下賭博の範圍を脱するものはありません而して此の賭
 博の性質あるものは不正だとしませは恐くは社會よ不正でなきも
 のはあるまいと考へます

と演じ了れば喝采の聲と拍手の音よて滿場湧が如く見へたり「ライ君
 那の相場の説は客よして其主却ち政黨の弊害を論ずる精神であつた
 のだらうか」否々な矢張聽衆の喝采を博し世人が相場を不正とするか
 否やを試したのぢやらう然らば彼が此の演説も亦賭博の範圍だをハ
 へくと打笑ふ此の時皆さん御免なさい」と遠慮なく聽衆の中を

通つて演壇より上る辨士を見れば髪は銀杏返しと結び顔は白壁より目を
を画きしかと疑ふばかり白粉を惜気もなく塗り付け二々子織の大綱
の衣服より綿南部の横堅の羽織を着偽博多と唐縮緬の腹合の帯より黄八
丈の前掛をしめたり「ライ君神明の的が出現まじくたゞ是は厄介な
事が起た見られずは堪らんぞ」君いくら帽を深く被ても君が候補のな
い薩摩がすりの羽織を知て居るから無益だ「貰う失敬な……」

「ライ君を皆さん……」

「イヤいよく大變だ鈴木さんお奇なさいよ素通は成りませんと例の
如く喋舌るのか」驚き入るテ

妾は「目的を二三よする勿れ」といふ私達が「大關係のあることを演
説しようと思ひますが皆さんも亦此の演題よりは大關係があらうと
信じます」ウウウウ……「總て何事を成しますよ先づ第一目

的を定めて取りかゝることです若し目的を定めなければ決して何
事よても成就することはありまへん假令へば片足は花見も往う
として東より向ひ片足は劇場へ往うと北より向へば何處へも往くこと
は出来ませんこんな事は皆さんが百も五承知で居ながら往々その
方向の定まらぬ人がありますから可笑しう御坐いますり那の私達
の處へ遊びに来る經師屋連否やお客さんは何を目的でお出でなさ
るのですか玉突や何かと全しく遊興の爲より弓を引てその的を射ら
るゝまでの事ですやうウウウ……然るに世間では私達は螺旋形の
外何か一種特別軟柔的の東西を射さするようよ言ひ嘘し又私達の
所へ張りナメより引よ来るお客も亦夫が目的だと云ひますが然らば
その目的とは如何なる東西を指すのですか……」

「ライ君今の一言を聴たか彼れ自らよく知て居るから白ばつくれ

て實よ狡猾極るぢやないかナニ狡猾のものか正當の言だ嫌よ辨護するぜ

妾は熟ら諸君が的を射給ふを見ますよ一意眼睛を的よ注がずして
 反て私達の顔のみ狙てお出でなさるから常よその射出す矢は鈍々と太鼓よのみ當てのよ當ることは稀れでありますワ此の如くして
 的を射んとせば爲朝揚由基をして起たしむとも正鵠を穿つことは
 出来ませぬ是れ他なしその目的を二三よするからでサア千諸君
 が目的は全く此よ在て彼よあらずと云ふのなら二箇の必要物があ
 りますその二箇の必要物とは何だと申せば則ち第一は黄白第二は
 容貌です併え第二は缺くとも黄白よは吾が自由を擲ち甘じて奴隷
 となりませぬ此の卑屈意氣地なき世の中ですから大抵第一のみよて
 目的を達せませうテすけれども少しく氣慨あるものは矢鱈無性よ

黄白の犠牲よは成りませぬ然るよ矢取女は十把一とからげよ誰れ
 でも自由よなると考へ揚弓を名として遊びよ來て僅か十錢か廿錢
 札の一枚も置いて一舉兩得の策を試みる人が多ふ御坐いますかなん
 ぽ物價が下落したからとて正かそんな廉なものには恐く鉄の草鞋を
 穿て搜したとてありますまい故よ妾の諸君が目的を一方よ定めて
 之を二三に成さらぬよう諸君の爲よ忠告します併しその目的彼よ
 在りながら憚りてその名のみ籍り他の目的を遂げんとするものハ
 私達の處へ來るお客ばかりではなく踏々たる天下皆な然らざるも
 のハ御坐いませぬ彼の一國の政略よ至てもその名のみは英を取て
 その實は獨を収むるようで更よ政略の目的が定まらぬ國がありま
 すが箇様の國はその政略の方針を社會よ表明して貰ひたう御坐い
 ます……

と銀鏡を以て演台を鏘と叩きて下ればヒヤ／＼ノウ／＼の聲よて例の二人の書生の談話を奪ひしが頗てその鳴の靜ると見へ君彼か阿賸物が必要ぢやと云ふよ至てはいよく彼等が本色を顯はした否を化の皮が現はれた彼が言ふ所は道理ヲ君などは時よ十錢札の一枚も置けば十圓も呉れた了見で有來の烟草をふからし加之茶の三四度も入れさせ櫻の湯を入れるれば花までム／＼ヤ／＼喰てその癖せ情夫氣取をするからサ君は△△新聞が△△の事なら一も二もなく寝め立るとよく似て居る定めてそう諛ふたら幾分か保護否惚れられるだらうヨと互よ舌戰の最中吾々の職業を奪ふものは誰ぞと云ふ演題を掲ぐると全時よ演壇よ上る辨士は縊縊半縊よ半股引を穿き一枚の鑑札を前よアラ下げたり那の辨士の頓て説き出して

嗚呼悲哉人類外よ攘斥された横目豎鼻の動物は即ち人力車夫です

私達だとして素より人間の形骸を有し乍ら好んで牛馬の仲間よ入たのではなく喰へないから止を得ず斯る卑じき働きをするので御ぜいやす然るよ堂々たる人々が計畫して私達の慙れ果敢ない業を奪て恬然として文明の事業だとか國益だとか云て誇るのは何事でせう此の無慈悲剛愎な吾々が警敵は何物だと申せば言はずとも知れた鉄道又は馬車會社です是らの會社は皆吾々賤民の業を奪ふて壘斷するものよて即ち吾々の命取です尤も鉄道などは有無を通じ智識を開發し開明世界は缺くべからざる者までそれ利益あるは無論ですが鉄道會社や馬車會社や或は水道會社などは皆獨占の事業よしてその利益は少數の人のみよして天下多數の人は其の利益を受ることは出来ません又此の鐵道が蜘蛛の巢の如く網の目の如く縦横は出來水道が地軸を鑿ちて經の如く緯の如く少しも明き目なく

便利が宜く成て適れ文明國の如き觀を爲しませうが幾万の貧民が之が爲よ業を失ふて父子兄弟離散し餓殍道路よ横たなら波蘭か埃及か否らずんば土耳其と一般よて決して其の開明とは云はれません然るよ外面の修飾のみ嬉ぶ人は動もすれば吾々を目して野蠻風だとか不体裁だとか或は他國よ對して國の面目を失ふなどと云て吾々が業を絶滅せんと種々の口實を設けて居ります今その論者の言を擧げませば凡そ動物の保存養育の模様よ變化なきときは子孫よ至るもその稟性同一なれど若しその間保存養育の模様よ變化あるときは其の骨格形状のみならず天稟の氣質よ於ても變化すべし故よ人類も亦その遭遇の變化よよりて形貌は知らず氣稟よ於ては必ず變化を受くべき理なり果して然らば苟も彼の牛馬の職たる車夫となるときは形骸既よ牛馬よ變ずるものたらざるべからず形骸

既よ牛馬よ變ずれば即ち心性氣稟も亦牛馬よ變せざるを得ざるべし是れ豈よ外人よ對して耻づべきよあらずや然るよ幸ひ鐵道事業の擴張するよ從て彼等の業漸次衰へて終よ消滅よ至るべし是れ徒よ外形上のみならず人類をして牛馬と伍せしめず人類たるの本分を失はしめざるものなりと此の説一應理なきよあらずれども數万の車夫が業を失へば全時よ他の業を求めなければ成りません而して今我國を見渡しますよ吾々勞力社會が爲すべき業がありますか私達は決して有るまいと思ひます果して私達が思ふた通り勞力を用ふべき道がありませんければ鐵道會社の如きハ數万の車夫をして路頭よ迷はせ竟よ吾々をして乾干よするものです併し公利公益の爲よ慙然乍ら吾々が業を奪ふとならば先づ預じめ吾々よ他の就くべき業を與へなければ成りません抑も吾々が勞力は即ち無形の

財産であります然るよ有形の財産を奪ふは法律よ問はれますが吾々が無形の財産を奪ふは法律よ問はれんからと云つて奪ひ放しとは實よ徳義の罪人ではありません歟ヒヤ／＼又吾々を指して牛馬の業だと罵り乍ら堂々たる人々が牛馬の食物を強奪して自ら之れを喰ふとは言語同斷の話で御坐います「ヒヤ／＼且つ吾々を以て既よ形骸牛馬よ變ずると言ふ吾々が業を奪ふは取りも直さず牛馬の食料を奪て之を喰ふと空前です然らば牛馬と齊しきものよてその氣稟も亦牛馬と變じませう否や牛馬より一層狼戾なものよ成りませ併し人は万有動物を食とするものだから牛馬の食のみならずその牛馬まで喰ても構はぬとませうか縦令ば愛よ一人の童子が取りまして果物を喰ふて居ると假定しませう而して突然此の童子の果物を奪て喰ひましたら柔弱なものよらば悲み泣きて止みませう

が勇氣あるものよらば怒て瓦石でも擲ちて抵抗しますは當然です況してや無智なる牛馬の食を掠めませば勢ひ暴れ廻るよ極て居ます然らばその形骸氣稟既よ牛馬よ化したる吾々が食物を奪ひ取らば吾々は牛馬の如く暴れ廻らざるべからずです其時吾々を責るよ人たるの理を以てすることは出来ませまい故よ吾々をして人類の体面を失はざらしめんとらば爲すべきの業を興へなければ成ません若し否らずして徒よ吾々が業を奪ふのみよて之よ業を興へませんければ彼の乞巧辨士が論じられた如く我が東京へ倫敦の貧民一揆を輸入し來らんも計り知るべからずです霜を履で堅氷至る天の未だ陰雨せざるよ厠戸を網纏せよとは之を未然よ防げと云ふのでせう請ふ諸君察し給へ

と車夫よ似氣なき悲愴淋漓の演説なれど何故か場中ゴト／＼しけれ

ば辨士のますく不平の面色よて演壇を下れり引續て現はれ出し辨士は又もや木綿のはぎくの半纏よ同じ藍色の泥よ染みし股引を穿ち淺黄絞りの手拭を腰よ下げたり此の辨士が面色如何といふよ烏をも欺き亞非利加の黒人種も殆んど三舎を避くる計よて此の辨士が演壇よ登ると忽ち臭氣粉々として聴衆の臭官を裂きければ人々皆鼻翼を摘みて演題を見れば鎮守の祭や村芝居は豊年の兆よあらすと記せり辨士はキヨロく聴衆を打眺めつゝ

ハア私に諸君よ伺へやすが都會のお人は盡く陶朱猗頓ワンテルピルトの大金持か知りましねエが祭禮など云へばエレイ立派よ飾立て騒ぎ散らし又月よ何度もヤレ芝居だのヤレ相撲だの寄席だのと遊び廻て巨額お金を遣はつしやるが私等の如く鎮守の祭や村芝居を見て此上もなき歡樂として居るものは魂消やす然るよ誰れも之

を金融がい、からだの贅澤だのと論ずる人はあらつしやるめい然るよ私等は朝は星を戴て出で夕ハ月を負ふて歸り粒々辛苦の氣舞よ僅か年よ一度位の鎮守祭か或ハ村芝居でも興行すれば忽ちヤレ今年ハ百姓が奢り散すゝら豊年だ田舎は景氣が宜いなど、嘖し立られやすが村芝居を興行したからと云ふて決して豊稔ぢやとは云はれまし子へ何となれば都會のお人が相撲や芝居へ往かつしやるツても強ち都會一般よ景氣が宜いとは申されませぬ夫れだよ私等が村芝居の一ツも興行すれば大層仰山よ田舎は景氣が宜い豊年ぢやなどと云はつしやるが私等だとして全ハ人間だ年よ一度位の氣保養をしたからと云つて奢り散すなぞと云はつしやるは餘り過酷な事では御座りましねエか是れ所謂己を待つことこの軽くして人を責るの重きと申のです是れ私が今日不平演説よ参りやして諸君よ

問ふ所以であります既述へやした通り鎮守祭や村芝居の興行を以て田舎が景氣が宜いなどと地方の情を知らんで嘸し立てますから今ではありまじ予へが昔しなどは何程百姓が究困して減租を請願しても皆却下されて地方は景氣が宜いから豊稔ぢやとてますます税を重くして軽くはさつしやりまじねへ是れその源因は諸君が地方の情を知らないのとお役人様が下精よ通じられんからの事で情けない譯けでは御坐りまじねへか夫れ故一時地租金が差支へることがありますとは是は百姓等が横着で上納しないのだらうと猜察するお役人などが今ではありまじせんが昔しなどはありまして御成規とは申し乍ら祖先より持來の田地田畠も些少の上納金の爲よ直様没収今ならば即ち公賣と申す御處分を受けますが實よ惘然の譯けではござりまじねへか謹聽く私等が村の源右衛門どんなどは地

租金未納の爲よ公賣處分よあふと聽き先祖傳來の田畠を失ふては祖先へ言ひ譯けがないとて一人娘のお芳こを驛場のお女郎よ賣て稍やくその金を調へて上納よ出懸けやしたら既よ入札人よ賣渡したとて何程取消を嘆願しても御取り上げなく終よ公賣の御處分よ成りましたが實よその慘狀の都人士の夢想せざる所ですと泣水ばなど共よ下りければ滿場蕭索として時々聽衆の中より嗚呼と嘆する聲を聞くのみ辨士は猶ほ語を繼ぎ尤も時々大政府から民情視察として高位高官のお方くが入らせられますが大抵縣廳或は警察署小學校等のみを御巡視なさるゝまてよて吠吠間の茅屋を御巡回よ成て實地悲惨の有様を御覽せらるゝことは稀です且つ縣下の市街は高官の御巡視と聽けば干渉があつての事か知りませんが國旗を掲げ燈籠を張て五穀積々万民敷腹

どの意を表しますから切角の民情視察官も充分地方の内情を御探
索なさるまでよ至らずして御歸京よ成りませ斯る次第ですから政
府の施す所ハ人民の害となる所となり政府の好む所は人民の好ま
ざる所となりその利害の逕庭します所から遂よ上下丕塞して上意
下達せず下情上達せずして或は官民の軋轢となり甚しきよ至ては
竹槍席旗などの騒動を惹き起すよ至りましたは既往の事實よ徴し
て明かで御座いやす是れ畢竟するよ都人が繁華の地よ居て凄涼た
る地方の情を知らんからです請ふ丈の知れたる村芝居の興行など
を目して地方は豊稔や好景氣ぢやなぞと誤り信して其結果竟よ
吾々をして悲惨の境界よ陥れて下さつしやるナ……

「百姓は百姓だけあつた何だか味ふ否殿と臭さうな所がある哩いソウ
彼等は昔しから泣く子と地頭よは勝れぬと卑屈よも諦め居たよ反し

て自分の所存を憶せず憚からず此の不平演説へ擴ぎ出した所は感心
サイヤ非常な辨士が出たゾ成程是は尤物だ所謂花顔月眉雪膚柳腰楚
々嬌々人を動す揚妃も之が爲よ鏡を掩ひ太具も之が爲よ顔なからん
と贊しても溢美よあらずぢや君は頻りよ容貌を褒めるが僕が望は君
と違て居る然らば君が望みとは……僕が望むは彼が衣服サ君那んな
服を何よする都盛ぢや君も究して居ながら随分迂活だ天保時代よ生
れよば好し迎も狡猾世界よ立つべき人物ぢやないテナせナせと云よ
見給へ那の頭の珊瑚の古渡玉の付た金あしの簪よ金無垢の櫛と黄八
丈の小袖と黒縮緬の羽織よシツチンの帯よきては之を踏倒しよ典じ
てもウエプストルの字書三四冊位の價直は充分あるからサ若し那の東
西があれば先づ債鬼の攻撃を懸懸して二三回は的の所へ往かれるか
ら流石有名な狡猾家だけあつて實よハヤ威服の外なしと各その地

よ因て感情を異よし那の辨士を見てあれば辨士は昨日髪を洗つて油
氣なしの達摩返しよ金股の管を留めよ挿し玉の如き手を以て鬢の毛
の二三本垂れかゝりしを拂ひ乍ら嬌婉なる聲音よて

妾は(一夫一婦と云ふ演題よて妾が所思を述べて諸君のお聴を煩は
します皆さん御存の通り一夫一婦といふ論が世よ出ましてから各
國學士達の嘖々唱道する所となりまして少しく學問あるものは一
夫一婦論を以て正理としませんものは御坐いません英の鴻儒斯邊
鎖が言よ公道は男女の別を知らず人たる文字は之を解するよ概通
の意義を以てして特別の意義を以てすべからず同等自由の法則は
人類の全体即ち男女も適用するや明けし云々と云はれましたが實
よ男女全權は万世不易の公道かと思ひますアノ男子と女子とは其
体格こそ違て居りますが其能力歸屬は男子よ劣りません今その一

例を擧げませば才學よは朗蘭夫人實節徳あり勇力よハ巴板領シヤ
ンメーグなどがありまして枚舉よ違まありません且つ内外國よ女
帝女王があつて男帝男王と異らないでは御座いませんか然らば男
女の權よ差等あるべき理はありません男女の權よ差等なくして男
女全權が公道なりとしませば一夫よして歐婦を擁しますのは婦人
の利益を奪ひその權理を剝ぐもので御座います妾は今斯邊鎖氏が
説を擧げてその利害のある所を証明しませう斯邊鎖氏の言よ曰く
一夫よして二婦を擁するとき一人の男子の利益よ浴する爲よ二
人の婦女の利益を減損するものなれば斷じて女子の爲よは之を有
害無益のものと謂はざるべからずと云はれましたが實よ男子のみ
快樂を得ても女子の幾分か共有すべき其快樂を減損しなければな
らんとハ偏頗極る譯では御座いませんか「ヒヤク

「君呼き給へ那の美人辨士は快樂を減損さるゝとて不平を鳴すが僕は
その快樂を満足さして遣らうか君の鉄面皮よして多量のものよは僕も
驚き入る元入よして情慾のないものがあるものか人生の快樂は肉交
の情味よ勝るものなしサ然るよ外面を繕ふ爲め劣情だとか何とか暗
へるものがあるがその心臓を解剖したら丸で目と心と反對だらうと
思ふ君諺よ色好まぬは玉の盃底なしと云ふ格言があるぢやないか」
ア喋舌すと辨士の説を聴き給へ

又全氏が言よ此の惡制を許すときは其弊は忽ち貧富不平の大害を
増長せしむ夫の素封家の如き己れが富財を以て自餘の人民を壓倒
せしものは此の惡制よ依て益すその勢焰を盛んよし遂よ底止する
所なかるべし何となれば貨財よ富める所の男子は恣よ貧家の女を
娶りて自由よ籠絡の計をなし他の男子の希望を杜絶し又その女は

數人よして一夫よ嫁して一夫一婦の歡樂を受ること能はず到底内
外怨女曠夫の多きよ堪へざるべきなりと論じられましたたが實よ數
婦の一夫よ嫁する弊害は擧て數へきれますまい妾などが現よ此の
惡制よりして一婦一夫の歡樂を尽す能はず富者の爲よ壓倒せられ
思はぬ人よこの身を委せて貴重の自由を奪はれたので御坐います
若し法律を以て此の惡制を禁じましたなら縱令父母が利慾よ迷ふ
てその子を黄金の犠牲よ供せんとし又富者か如何なる籠絡手段を
施しましても法律よ違背しますから勢ひその罪人たるを懼れて思
ひ止りませう又此の社會よ一夫よして數婦を擁する惡制がありま
すときハ婢妾たるものは勢ひ競ふて郎夫の歡心を買ふと思ひ他人
の寵愛を奪つて己が寵愛を得んとのみ務むるよ至り遂よ男子の威
權を増長させますく男女不同權の邪説をしてその氣焰を盛ん

らしむるに至ります。加之此の如くなるとき、婢妾の嫉妬讒構より一家族の和平を擾亂してその衰亡を招きました事實は、那の歴史が保證よ立て居ります。ヒヤ、一夫數婦の弊は既に此の如くだから徳義の勢力が法律の威力よ依て禁止しなければなりません。倍て此の一夫一婦と男女同權説とは密着の關係がありますから、又女子が權利のよ付て一言致しませう。那の一夫數婦は男子のみ權ありて妻妾の權なきが常であります。時よは妻妾の權その夫より強大なる一種不思議の現象を呈することが御坐います。是は其夫が妻妾よ感溺し自からその權を剣で之を妻妾よ讓與しましたのであります。彼の章台よ流連し、梁苑よ沈溺して頻りよ容媚を求め、唯々諾々巾幗の命之れ聽き、恰も傀儡の操手よ於るが如く、又軟弱なる海綿の如く自由自在よなりまして、其の女子の權の重大なること殆んど君父

よ超過するものが御坐います。是は男子がその權を自から棄てたので決して婦人よ權があつて爾るのではありません。去れば一夫一婦の正理が行われません。ければ男女全權は迎と望むことは出来ません。今試よ極端よ涉て論じませう。なら男子が己の財を以て數婦を擁するなら婦人も亦自己財を以て數夫よ接しても宜い筈であります。ノウ、尤も數夫一婦の國も有ります。さうですが我國よては男子が數婦を擁するは古來より社會風俗の威權よ制せられて當然の如く思ひ取て怪しむものはありません。而して婦人が若し數夫よ接したなら、忽ち露々として彼は不貞なり。彼は淫逸なりと論じ立ます。が動物が肉交の快樂よ至ては男女共よ輕重は御坐いません。然るよ男子のみの情慾を恣よするも當然として婦人よ於ては酷よ之を詭るは甚だ不公平ではありません。か若し婦人社會が之を不公平と

して男子が傲婦を擁するなら婦人も亦傲夫と接する權ありとしま
したなら竟も此の社會は色慾の鬭争場と爲て徳義品行等は悉く地
を掃ひ高等動物が下等動物の仲間入をしますでせう縦令夫程迄よ
至りませんでも一夫傲婦の弊害は彼是共淫逸に流れ社會の徳義
を紊亂し風俗を壞敗せしむるもので御坐いますヨ

彼の佳人は全く一夫一婦論かナア或は言行相反する如きとは無から
うカ然うサ彼は寵愛が衰て來たものだから孤衾空閨の不平よ
り激して一夫一婦論を担ぎ出したのだらうか其實一婦傲夫論は彼が
賛成なのぢやらうテ君もその傲夫の一人よ加りたからう敢てその意
なきよしも非ずサハ、くく」と笑ふとき辨士は銀瓶の冷水を吸一
吸して

諸君一夫一婦論の公正なることは此の如く明々瞭々として居りま

すが反對論者は何處までも男尊女卑の弊説を主張しようと思ひま
すから勢ひ又一夫傲婦を道理あるもの、如く論じます今反對論者
が金城鉄壁と頼みて動もすれば之よ立籠る説を擧げませうその説
よ男子は繼續の爲よ傲婦を畜ふ義よして敢て色を漁し淫を貪るよ
あらず一婦の兒子を産出せざるときは一夫よして二婦を畜ふは變
則の正なるものよて所謂權道ありと論じますが成程一應はその理
なきでもありませんが是は即ち逆辭です大抵一夫よまて傲婦を擁
するものは其家富豪よまて已が情慾を充さん爲よて眞に繼續の爲
よするものは夢々として曉星の如くです故よ之を繼續よ妨げなく
して一身の情慾の爲よ傲婦を擁するものなりと斷言しても強ち無
理とは申されません

「え何うだ、彼は男子のみ攻撃するが二婦よして傲夫よ接するを論

じないのは利己主義ぢやナラ然りく一夫よして教婦を要るは維ひ口實よもせよ編綴の爲ぢやと云ふ論点があるが一婦よして教婦よ接するは如何と是の問題の辨解をせぬのは横着極るテノウウくの聲を發して演説の妨害を與へて遣うか

今日の聴衆諸君の皆鬚髯丈夫よて巾幗社會を玩弄しようと思ふ人々が多數を占て居られますから妾の説は賛成者の少くないのは甚だお恨みですよ諸君妾が斯く喋々論じ去り論じ来りましても尙ほ男子は婦人を己が慰み物だと迷信されますか今再び男女全等なるべき点を舉げてその遺を補ひませう夫れ男子は人類の種子を精氣よ含有えて居りますが形体を造成して之を産出するの器械を有て居ません又女子はその種子を含有じませんが之を産出するの器械を有て居るおれは男女相俟て人類を産出するのであり

ませう然るば就れを貴とせ我れを輕とせする理はありません果して此の如くなれば一婦一夫男女全權は天地和合の眞理よして万物生々の理よ原くもので御坐います故よ妾は速かよ此の眞理を實地よ施して内よ怨女なく外よ曠夫なく二性相共よ情交の歡樂を偏輕偏重なく享有せんことを希望致します

と嫣然一笑して壇を下れば此時まで閑然として喝采の聲をかりしか遽かよヒヤくの聲と拍手の音よて滿場喧嘩たり此時小腰を屈めて演壇よ登れる辨士を何者ぞと聴衆皆視線と之よ注げば辨士の茶色の五ツ所紋の羽織よ唐棧編の袴を着下よは紅色襦袢を着たり頓て演壇よ登るや否直ちよコップの水を呑みて聴衆を一揖し扇子をパチク鳴し乍ら説き出したなり

只今はお麗い所の辨士が御機嫌を伺ひましたその跡へ直ぐこんを

まづか五面想を擔ぎ上げまじでは甚だ相濟ません譯で御坐います
 が餘りお麗の計り御覽よ成りますとツイソレ諸君が謀反心でもお
 發し成さつて江戸拂ひでも成るとお氣の毒ですから私が之を豫
 防の爲に上たので御坐います(大笑)倍へや私は落語家も亦氣概な
 べからずと申お八釜敷お話を一トくさりお膝舌いたして直様御
 免頂戴ですが從來落語家と申すもの唯お失笑と云事のみ主眼と
 してありましたが其弊遂にお客をして無理よでも笑せよと思ひ
 父子兄弟の前よて言ふべからず聞くよ堪へざる閨中の秘事を許さ
 果ては高坐よ於て其醜態を摸擬するものがありますがお實よ耻なき
 の極ではありませんか之を禮儀正しく且つ尤も陰事の話などを嫌
 ひ避る英人などお聽せまじたら野蠻と許しませうか淫逸と罵り
 ませりか惡くは魂消え困た口が塞ぎまじませい「オヤ」くお客の笑を

味むるは何も斯る拙劣なる方法を用おませんでも幾何も滑稽風を
 解き臍を絞る手段方法はありませう然るよ計此よ出ずモ「些」大層で
 ずが右の如き拙劣手段を用おすとも濟むべきを矢張用おますは落
 語家の罪の勿論で御坐いますがお客も亦與て罪ありと謂はざるべ
 からずでス何となれば落語家のみでなく何業でも其時世風俗よ適
 するよようは仕なければ生存競争の理よて絶滅まますから力めて其
 時世よ適するよよう心掛るので御坐いませう故よ舊時の風が淫靡な
 ら淫靡のお話しでなければ向きません若し又當時の風が徳義を尙
 び操行を重するなら淫靡のお話を致まても賞美する人なく否な聽
 衆がありませんから勢斯るお話は消滅してその跡を絶て仕舞ませ
 う假令ば今吾々が英國へ押渡して日本で辨ずるよような淫猥な話
 を致したなら皆耳を掩ふて聽く者は御坐いますまい然らば落語家

が淫猥のお話も致しますのは時の風俗が淫猥なのですから仕方がなく強ち落語家討りも責られませんが豈に慨嘆の至りと謂はざるべからずです「ヒヤ」く併し乍ら吾々も亦苟も教導職とか何講義とか坊主然たる位置を有するからは社會の木鐸となり社會の耳目と成て幾分か此社會の弊を改良し野蠻の遺風を去て文明の域に進めんとする覺悟なくては成りませぬ

「ヒヤ」君鹿社會も人間らしいものが有るから可笑テソウ彼は正か前坐でもあるまいが彼が大言よは抱腹絶倒する哩ハ、く彼は素より吾々が笑を博さうとして居るのだから……ウソ成程是よは閉口したナ

然るよ吾々が此の如く堂々として君子又は學者の心持よて斯邊鎖のフエロソフピ「だ」とか乾徳が何うだとか坤的がどうだとか云ひ

升と忽ち知りもしない癖よ生意氣な奴だと生意氣の三字を以て攻撃されますが百も御承知二百も台点の博學多才のヘコ帯先生方は兎も角御婦人方や小兒衆の知見よ乏しき人々よ強て益よなり且つ傍ら慰みよ成るお話を仕たなら幾分か人智を發達して文明を進歩せしむることよ於て決して其功なきとは申されませぬ此の如くよしてこそ始めて何講義たるの職分を尽したと申ませう然るよ往々淫奔な客の意を迎へんとして不体裁のお話しを致しますは詢よ沙汰の限りで御坐いますナレドモ落語家が少しく高尚なお話を交へますと前申す通り忽ちち生意氣の三字を以て痛く攻撃されますから中よは之よ懼れて落語家は馬鹿氣な事で足ると甘心して居るものもありませうが苟もその身が何講義などと呼ぶ、からは自から地位を占めて懸らんければ成ませぬ然るよ生意氣な客の品評

位は避易するよりな事では到底落語家たるの職分を尽すことは出来ずまい是れ畢竟するは落語家も氣概がないからです落語家として氣概がありませんば滑稽實梯の間識す知らず人智を開發し徳義を獎勵することが出来ませう併し是は少く文字を知り道理を解する落語家も望むので決して七面相を遣ひ又ハステ、コ踊りなどをして狂ひ廻る眞の鹿連も望むのではありません而して現今の落語家で少く才學あるものも御坐います矢張その演ずる所を見ませば世間も有ふれたる人情話の續きもの位は止て而して續きものも往々男女の關係の淫猥な事が多く御坐います是れ落語家が氣概なきとは申すは淫猥の時世は之でなくでは適せず若し又之でなければ忽ち喉元が干上るから止むを得ずして斯るお話をするのかも知れませんが然らば落語を改良して淫猥の風を輕減せしめん

よは落語家の氣概を起すべきの勿論ながら是は社會の模範たる上流社會より此の風を改めて實はなければ成りません上の好む所下之より甚しと此の格言は万古不易動かすべからざる言で御坐います

「中々遣るぢやないか余程熱心だぞ熱心だから皮膚までも熱くなつたか知らんが高坐で演ずる都盛で聴衆も對ひ自己の羽織をサモ自滿さうよ脱ぐは失敬ではないか君は妙な感じを起したア、解つた」
此間君は那の羽織を禁錮させたものだから羨望のあまり言外も發れたのだナ、羨う失敬ナ……

縦設ば上流社會で洋服を着洋食を喫すると忽ち下流社會でも鹿服乍も洋服を着鹿食ながらも洋食を食ひ殆んど鷄鷄と一般よてよく真似でのありますせんか然るは上流社會が「ハンレイポール」や舞踏會

なごて醜聲の聞ゆるとがあまりましては決して此の社會の摸範と爲て淫風を改むるとは出来ません何となれに其摸型が摸型でありま
すからです去れば何程吾々社會よ氣概があつて逆よ立て謙だから
と云つて勞疲もうけの骨折損で御座います夫れ然り然らば從來落
語家の淫猥談多きは當時社會の風俗が然らしめ社會の風俗の紊れ
たのは上流社會が然らしめたものだらうと考へます故よ此の社會
の風儀を改むるに上流社會より品行を方正よして下流社會よその
摸範を示さなければ外は徳義を装ふて内は淫猥よ流れ皮想のみの
文明よして内部の文明は到底期することは六ヶ敷い是は私が斗大
の印を捺て保証致します……丁度跡連が見へましたから差し交り
ます

と退きければ例の拍手喝采よて聽衆の鼓膜を裂きたり君種を薩陀と

奇變辨士が現はれるが今度は何者が出懸るだらう出たくは異形
だ那の木綿の五ツ處紋の八時頃否な夫れでは黒かつたツケ三時頃と
いふ眞赤よ禿げた羽織よ白色が鼠と化け絞も何も判然せぬ袴を穿ち
左の手よ天眼鏡を持ち左の手よ算木を持たのは如何なる量見で演壇
よ登るのだらうこの聽衆の集合を幸よ當用二錢身の上四錢と勤め
立るのかナアア何を言ひ出すか見て居ようと罵り會ふを辨士は平
氣の顔付よて

エヘン拙者は是よ掲げて御坐る通り開明社會の亡者と申すことを
判断ナニサ演說致す所存で罷り出でました倍て當今の方々即ち明
治年間の青書生輩は此の易を以て妄言と罵り虚談と嘲り少しく目
よ蟹行鳥跡を辨するものは之よ迷ひぬようよ思て居りますすが是は
所謂生意氣と申すので決して左様な理は御座らぬ尤も街頭よ立て

常用二錢身の上四錢と喋舌くりよくも筮法を辨へずして愚夫愚婦
 を欺く狡獪漢が御坐るが如何よ智慧がないよしろ田舎漢よしる儘
 か二錢を以て吉凶禍福を知り四錢を以てその身一代の幸不幸を前
 知しようとは慾が深過るでは御坐らぬか「ヒヤ」如何よ不景氣よ
 して物價か下落したからと謂て左様な安直なものに御座るまいエ
 ヘン若し果して一代の幸不幸吉凶禍福が前知されたなら危難も罹
 るものもなく失敗を招くものもなく人々皆富貴長壽極樂安土些と
 も心配はわりませぬ而して拙者の如きも其禍福を前知しましたな
 ら筮竹と天眼鏡よ命を繋ぐような果敢ない境界よは陥りませむ然
 るよ是れ之を察せず僅々四錢の價を以て其幸不幸禍福を前知しよ
 うと欲し若し當らぬ時は易占などは當てよならぬ所謂當るも八卦
 當らぬも八卦だとして罵るものが御坐るが甚だ心得難き次第で御坐

る周易の書は人の訓戒よ供するよ用あるものよて中々意味深長な
 もので妄迷者の爲よ筮竹を弄する爲のみでは御坐らぬ然るよ本筮
 十八變も祿々解し得ぬ連中が無暗矢鱈よ易とさへ云へば妄迷社會
 よのみ行はる、よう罵るの甚だ殘念至極で御坐る又筮法だとして強
 ち無益なものでも御坐らぬ物事よ決心力なき人よ果斷の處置を爲
 さしむるは一ツの方便でせう縦令は爰よ一箇の商人がありまして
 今一ツの事業よ手を出さうとして少の故障あるよ憶して躊躇する
 ものがあると假定しませう而して此の商人が判斷を易者よ求めま
 せば易者はその商人の意思を察し本人か孰れの方よ重よ意を寄す
 るかを其言語舉動の間よ考へ又その模様手段等を詳しく聽て是な
 らば多分十中八九は過るまいと認めたら易を以て之を証明して
 本人よ判決を與ふれば思慮なきものや又ハ決斷なきものをして齎

發興起せしむるよ足るか考へます且つ自ら其事よ當るものは誰れも迷ひ易きもので之よ迷はず果敢の處置を爲す人は尋常人ではありません必ず豪傑ならずんば聖賢その人で御坐る古し支那の慷慨家屈原先生さへ迷ふて詹尹よ問ふたでは御坐らぬか然るよ彼の詹尹が屈原の問よ明斷を與へることが出來なかつたのは吾々社會の不名譽として嘆息すべき至りで御坐る熟ら今日吾國の有様を察するよ屈原の如き愛憤の人物が最も多く而して屈原の如き地位よ陷て屈原の如き迷を懷て居るものが幾何あるか知れませんと説き來れば滿場感極て嘆せざるも此なし

然るよ是等の志士が易を用おすして反て之を護るものが多いは甚だ解せぬ次第で御坐る爰よ人ありて愚夫愚婦は果斷がないから易を利用するも宜けれど果斷あるものは如何と問へは拙者は果斷あるものも亦易を利用して宜いと答へます何となれば其果斷は實よ嘉すべく賞すべきも後の慮りなきを如何しませう故よ果斷あるよもせよ氣概あるよもせよ忍ぶべきの時よ忍ぶべからざるの舉動をなし遠よ縲紲の禍よ罹るものが續々現はれますが是は實よ國家の爲よ惜しむべく嘆すべき至で御坐る今拙者が試よ右の人々の地位よ立ちましても忍ぶべからず堪ゆべからざる事情あるよ未だ時到期らずと想ひ直すは甚た無念で御坐い舛から決して無理とは申しません故よ拙者は右の人々よ一個の方便を與へませう縦設ば言ひたき事も得言へぬ事や又は行ひたき事も行へぬ場合あらば誰れでも憤懣よ堪へられませう此時〇〇が言はせぬのでなく〇〇が行はせぬのでなく此の易の判斷よて許さぬのだと諦めたなら幾分か憤懣心を慰る方便となりませう且つ易は文王が暴君の爲よ執はれて

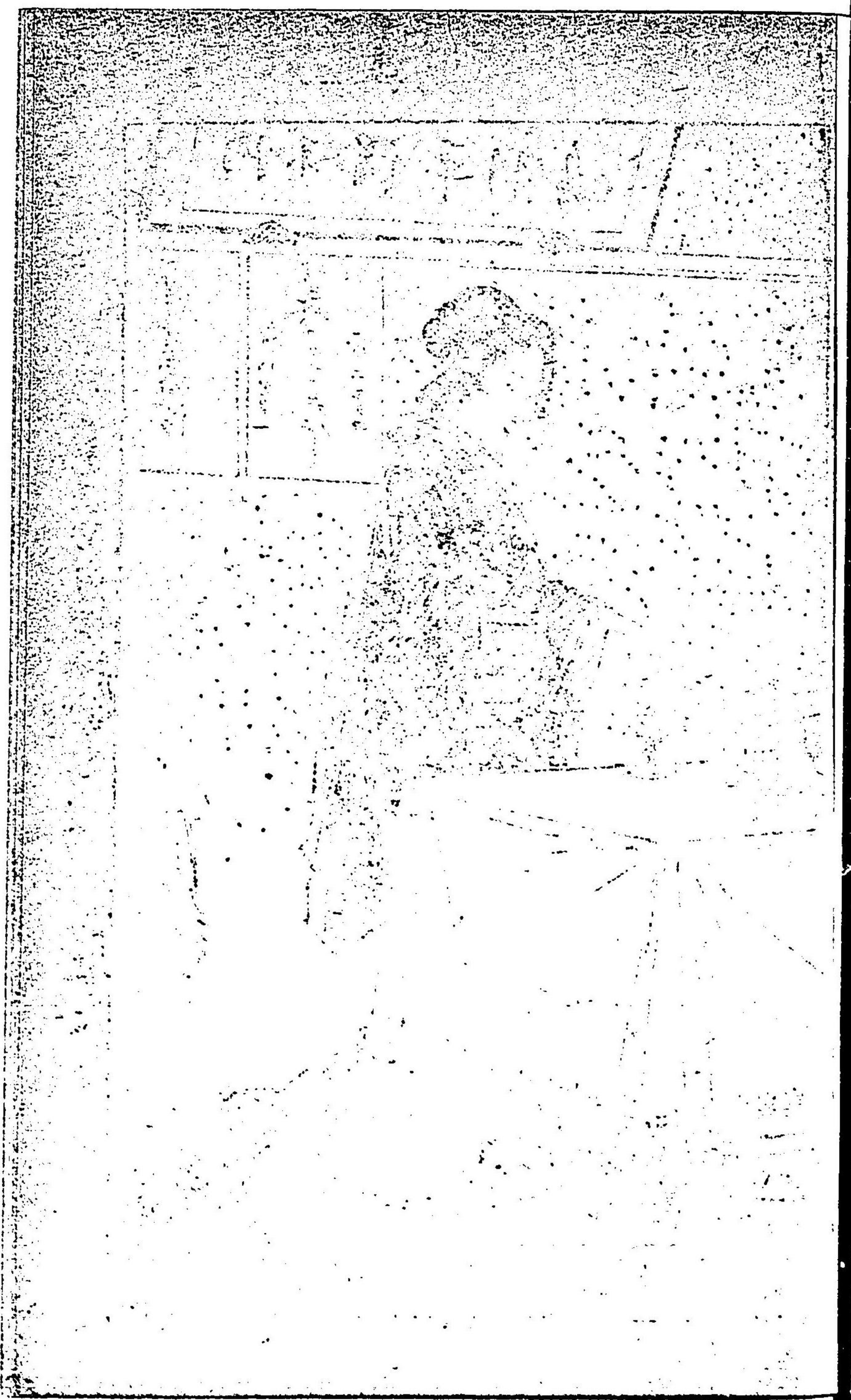
美里の獄中よ作られたと云へば志士の身上よ取ては思ひ當る所も御坐らうと考へます右の次第なれば易も用おようよて決断なき人よは果敢の氣を生せしめ果敢よして氣概ある人よは其志慮を深からしむる功能がありますから決して易だとして侮るべきものでない否々開明社會の亡者否志士よは缺くべからざるものかと思ひます併し拙者は決断なき人よ果敢心を起さずは望みますが果敢の人をして易を以てその不平心を慰めしむるよ至るはあまり望ましくは御坐らぬテヒヤク

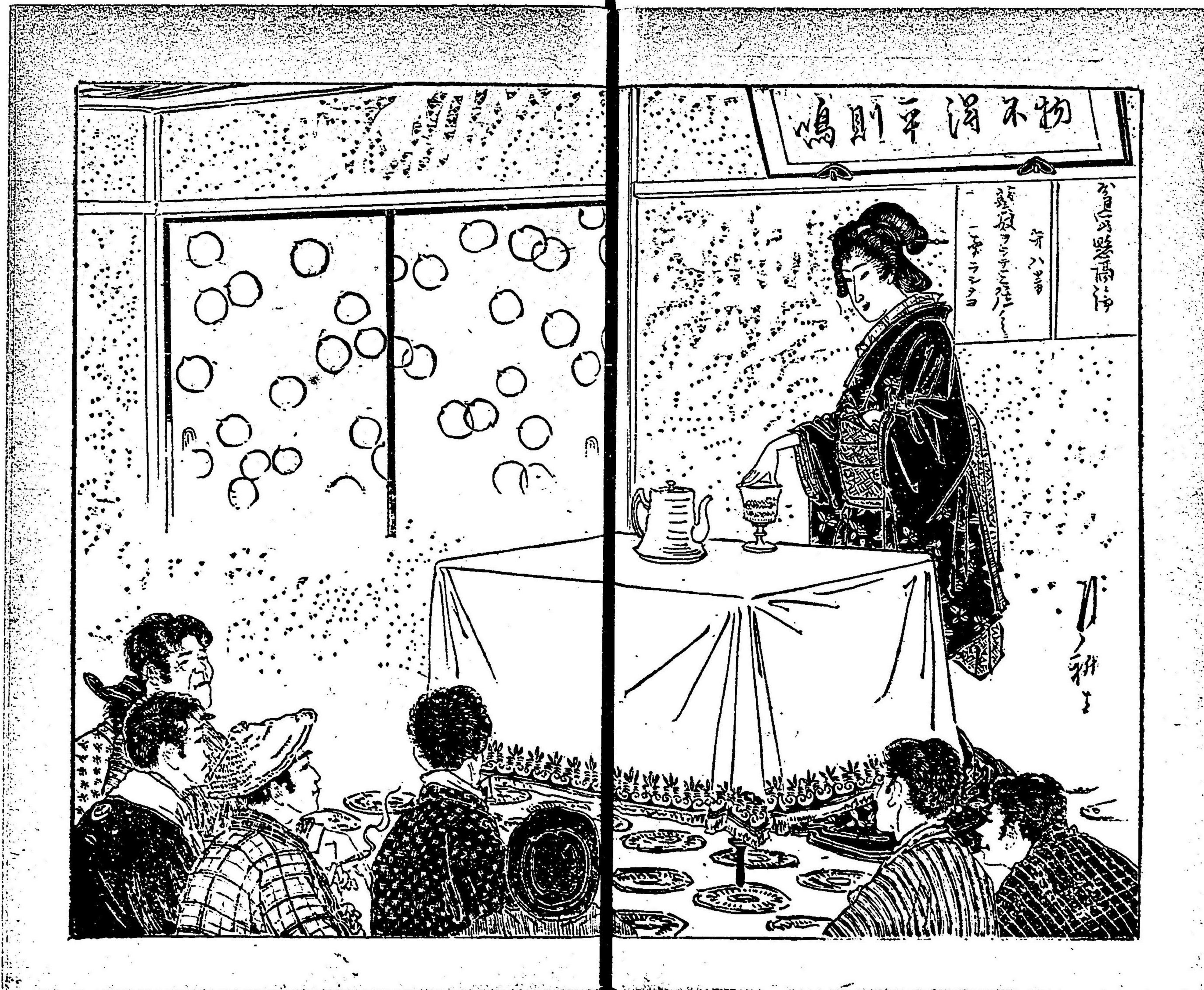
「君彼は見懸よ似ず頑固説も吐き出さんだつたネ」ウソ横分か寓意ありだが彼が論中易が許さぬと諦める云々よ至ては實よ悲憤な語さ中々「只の易者ぢやあるまい」愛で男の助を氣取つては困るぜイヤ出現ましくたぞ是れは格別だ那の矯舌を鳴してヘイ今晚はと遣られてハ儼

慨家も浮れ出し不平黨も踊り出ざるを得ずだ「成程藝と云ひ容色と云ひ否藝は未だ知らなんだッけ併し衣服も中々華美だが那の淺黄色の絹縮のお召は宜いが袖の先よ少し星があるのハ何處かで見たテッウ」富澤町邊ぢやツメ君は古着商のようよよく衣服の詮索ばかりするが見給へ彼の色くつきりと白く鼻高からず低からず口元の愛嬌づきて目のぱつちりとした所は如何なる形容辭も之よ充ることは出来む彼の秋波よ流騰されたなら千軍万馬を叱咤して隻手よ政海の怒濤を回す大豪傑僕の如きも恐くは惱殺せらるゝだらうヲイ君烟草の火が膝の上よ落て居る幸ひ君の流涎で消防したまへイヤ大變くどうく典物の價直が下つた併し彼の爲だと思へば毫も惜むよ足らずサ「君の好色漢よは流石の僕も三舍を避ると一人が見惚れば一人が悪口を叩て居るを辨士は斜よ打見やり一層嬌聲を發して

ハイ今日は……

ヒヤ／＼ッラ始つた堪らんぞ／＼然う浮れ出しては他の聴衆の妨害
よなるワッレ君帽子が後へ落たゾ「ナニかまじん／＼黙て居たまへ
妾は那の藝妓をして三弦のみを賣らしめよ」と云ひます演説を仕よ
うと思んですが笑つちやア厭嫌ですよ皆はん御存でせうが私たち
の本業は三弦を弾てお客の酒興を添へますのですが近頃は三弦を
弾きませんで之を枕よする者が多くなつて参りました故藝妓の娼
妓の職權を侵すの又は小判癪癪だのと痛諭されますが全くその通
りですから辨解することが出来ません實よ私達藝妓社會の品格を
下して仕舞ひました……私は残念ですよアすから爰で少しく藝妓
の歴史を摘んで昔は只今のようで無つた譯を証明しませう那の古
昔は酒宴遊興の席よ侍つて歌舞系竹の業を以て渡世としますもの

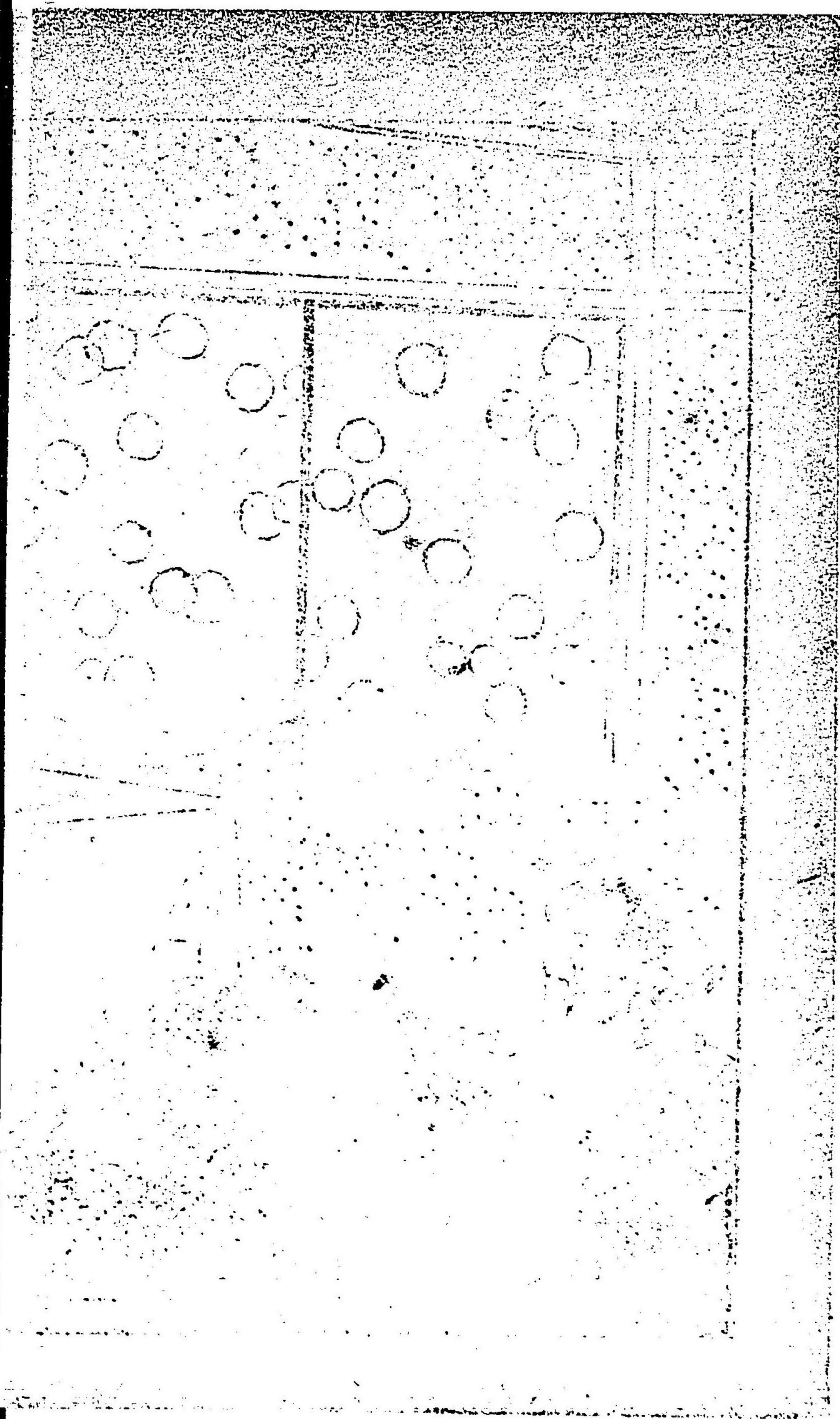




物不消平則鳴

茶の湯
一茶一湯
一茶一湯

茶の湯



は所謂白拍子として今様朗詠などを誦して多くの人の遊びものとは成り
ましたが決して只今の藝妓の如く猥りよ黄金の癡癡を起すものは
ありまへんでした唯だ自分が好たとか又の思寵を受けて妾と爲り
て身を委すことがありますが今のようよ五六人の妾と爲たり又は
人を撰す誰よても情を隠さば致しません曾我十郎祐成が妾大磯の
虎や義経の妾静をぞを見ませば當時の藝妓即ち白拍子の有様がよ
く知られます彼の清盛の祇王佛よあきまざる重衡の千壽宗盛の熊
野辱くも後鳥羽天皇の龜菊よ於るなどの皆悉く白拍子よして今の
藝妓の濫觴であります

君今説き來た容子では中々君などよ轉じさうもない大よ目的が外れ
たよ一ナニあんな頑固藝妓よ誰が意を屬するものか二六時中香箱を
作てお茶のひき通したから那んな不平を鳴すのサ自己よ利と見れば

忽ち衰ゆ不利と見れば遠慮なく誦る實は君の心は猫の目の變り易いと一般で又その猫は譲らぬ輕薄だ君の父祖は鳥の精でも愛そと見へて君の口より殆んど閉口するあまり閉口もせんぜ婦人を見ると君の口は締りがなく常々開放と來て居るもの……イヤ實は君のお喋舌は驚たと話し居るを辨士は素知らぬ振よて

その後白拍子の業も癩れ今様も絶へくよなり遊女は専ら淫を嗜くようよ成て此の淫風一般は蔓延して遂は花院といふものが出來ましたが是の派は全しく遊女とは申乍ら藝妓即ち昔の白拍子の正統ではありません扱て淫を賣るものが出來て藝を賣るものがありますませんから酒宴の席より三味線彈小謡の師匠などする女を招娉して酒席は侍らしましたが是が則ち今の藝者の始まりで實曆安永の頃でありましたさうですテ見ますると藝妓は白拍子以來藝のみ

を賣たもので決して今日のように三味線を執したものではありません併し藝妓がその本業を後よして娼權を侵すに至りましたは強ち藝妓ばかりの罪ではありまへん則ち之を呼ぶお客も興つて罪があります否之を權評は掛ましたらお客の方が罪が多ふ御坐いますせうノウウゝ何となれば今日のお客は藝の巧拙を問はずして容貌の醜美を問ひ妓を娉するは始めよりその意藝はあらずして色に在るのですから藝者も亦藝を後よして色を先よするようよ成りました故に若し藝妓がお客は袖裾を推かされたとき凛然として妾は藝を賣るものよして色を賣るものよあらず請ふ色を買はんとせらば君駕を北里に枉げよとピンシヤン刻付たら廣ひ東京には氣概がある深川の風があると褒める人があるか知りませんが忽ち御神燈の火の消へて表の格子戸は雀が巢を作りまます左すれば税金や所得税よ

詰り果ては鑑札をお取上げになりますから好まない人でも是非なく三味線を枕とするのです。是は私達の内幕を知た通人は決して無理とは申しません。然るに下情を通ぜぬ擬道德家は箇様な事情を知らずして徒らに藝妓は已れが職務を忘れて私窩子の業を爲すとか或は風俗を紊亂すとか何とか責めますが眞實に私達程つらい稼はありますまい。「ヒヤ／＼ノウ／＼」又昔白拍子が品格が好つたのは當時のお客が今のお客の如く悉く色のみを愛するでなく單に藝のみを以て娯したのと又その内幕に心配が無いからです。その内幕の心配とは何だと申せば即ち營業稅所得稅などです。白拍子の頃は營業稅や所得稅があるとは聞ませんでした。夫れ故喜しが樂ですから自然に品格が好くつて卑しくありませんでした。然らう西語に金は即ち權力なりと云ひます通りお金さへありますせば又權職もありません。答です。

夫れ故今の如くお金の爲に心ならずも身を許すような卑屈なことはなかつたのであります。「ヒヤ／＼」皆さん考へて御覽なさい。私達だとして金さへあつて四季の仕度や税金よさへ困りません。けれども西國なまりの御髻鬘々たる無粹漢の身を委すのは敢て好む所ではありません。併し中よは玉の興に載うと思ふて全くお髻の好きなものも有りませう。是は別物として置ます。扱て藝妓がその本業を抛棄して娼權を侵し爲る風俗掛などの出来るようになりましたは素より藝妓もその罪は免かれず。又藝妓のみでなく將たお客のみでなく別な理由のありますことよて……「ヒヤ／＼」種々の原因よりして斯る有様になりましたのです。故に只今の如き淫風を改めますよは藝妓は勿論お客さん達もその品格を白拍子時代のようになり高尚にして藝を買って淫を買はず。而して一方に於ては妾達をして白拍子時代の如

く税などよ心配なきよう安樂よさへ仕て下さらば藝妓も白拍子の
ようよ成るよ相違ありません妾の早くさう成て三味線ばかり售て
見たう御坐いまワ左様なら……

と左襟を掲げ紅裙を曳て演壇を下れば聴衆皆眸子を轉じ膝尾を三日
月形よせざるもの稀なり中々婉曲よは云ひ廻したようだか余程無理
な相談だテ實よアノ氣概は古の白拍子よも劣らぬ所がある又アノ位
な才色兼備の藝妓なら君が腹立まされよ罵た如く香箱を折る氣遣ひ
なし嗚呼泥埋の蓮花とは彼を謂ふのだよう君は頼りよ彼を賞賛する
が若し彼が果して藝のみ賣て情を離がぬとなつたら君の如き狡獪見
は藝妓よりか門付か寄席の方が經濟だと云ひ出すよ極て居る君が心
中を悉く書き出たアアノ通り狡獪な反駁だもの……イヤ今度は有
難くない辨士だ併し演題は立派で貧富懸隔論だゼウソク乞呼辨士の進

だだらう併し目録網の股引に全し絆纏を着た所は少しく上等だか矢
張其論旨は平々凡々だらうと輕蔑する辯士の耳よ入しと見へ少
しく勃として肩よ掛たる手拭を取て鷲攫よし卷舌と云ふ搥梅よて
私らは愛よづら下げてある演題を以てやらかしやすが私らは職人
ですから七六ツケ敷事は喋舌ませんから短刀直人とかで直く本題
よ取り掛りやす
ナンダ取り掛るなぞと丸で手品遣ひの口上ぢやナニ夫れ……大工辨
士だからサ

夫れ……

「夫れが可笑ひマア聽て居て見たまへ……」

我邦の人民は二百有余年間無爲大平の世よ安眠して居ましたが維
新以來西洋の文物が吾國へ輸入して來まして社會百般の事物よ變

勤を起しましたか一體國が開ける。と入民が幸福を得る筈でありや
すか反て一方のもの、み幸福を得て益す富貴よ成り一方のも此は
幸福を失ふてますます貧困よ成て貧富懸隔するとは頃ろ經濟上の
一問題だそうですが國が開けて貧乏人か増加するとの解からねエ
道理ぢやありやせんか國が開けるよ從て人民か樂よあるなら好け
れども反て苦よ成るなら開けねエ方が余程好い皆さん定めて知て
居られませうが夫の歐羅巴は文明の本家本元であります然るよ鐵
道や電線や汽車やその外面は酷だ立派よして連れ文明國のよう
すが其内部はと云ふと野蠻國より遙かよ劣た所がありやす夫の何
だと申せば進歩するよ從て一部の人民がますます富んで一部の
民がますます貧しく成るといふ奇体を現象でありますテ見ませ
ば文明は財產家の取ては其友でありませうが無財產家は取ては

敵でありませう吾國でも西洋の文明を輸入しました故來なくつて
も宜ろしい貧富懸隔といふ惡魔も俱よ遁入て参りました一件この
貧富懸隔の原因は種々ありませうが先づ自然獨占事業などか重なる
ものだと思ひやすこの獨占事業の事よ付ては曩よ人力辨士も辨
じられました通り鐵道會社だの水道會社だのいふ巨萬の資金を有
する所の會社が現はれて來て貧民の業を奪て獨占をするから貧民
は業を失ふて是等の會社よその喉を絞らるゝのであります頃又私
達の業を奪ふ工業會社だとか土木會社だとか吐す奴が一ト雨毎よ
陸續と出來やしたから段々よ業が暇よ成て來ました併し右の會社
で相當の時間を呉れて悉く雇ふて呉れ、ば宜う御せいやすが中々
左うは往きますまい又縦令へ雇ふて呉れたよしる會社では私達の
暇を見込んで極く安で雇ひ入やすから割出の酷し又會社は資金が

多い所から種々の機械を用て人工よ易へやすから人は段々不用よ成て來ます人が不用よ成て來ますから私達は暇よ成て喉元が干上て參りやす是は手間取の私達のみでなし棟梁達は皆此の會社よ壓倒されて仕舞やす去ればとて手を束ねて餓死するも馬鹿氣て居ますから腕の折ん限り力の續かん限り奮發して彼と競争を試みやしても先方は二三人の職人が機械よ藉て百も二百も一時よ製出するを人の腕では僅かしか作れませんから自然先方の品は安く此方の品は高く成りやす左すれば安いものは賣れ高いもの賣れませんのは當然の事です然うると云つて安く賣れば手間よ合はんで食ひ込みやすし實よ身体極るとは此事でせう併し夫は生存競争の理で負けたのだから仕方がないと云ふ諦よい人がありますが私ちもぞい中々執念が深いのか左う諦められませんが先刻からも引き合よ出

ましたが歐羅巴までで社會黨だの虛無黨だのと云ふ過激を導中が起りましたは私ちのような不平の人が段々集た大塊りであります併し私はいんを過激な事は極々嫌でありますけれどいよく獨占會社をぞの爲よ業を奪はれて親子妻子が餓死するような淺ましい場合となりましたら之か爲よ發狂して彼等は私達の管敵だからナラシテ仕舞へと狂ひ廻るかも知れませんが一犬吠を吠へ万犬實を傳へて發狂者がますます多く成て破壞主義でも唱へるものが出來ませば治安よ妨害がありますから社會黨條例の如き又好ましからぬ條例が増加ませう左うなると又之が爲よ罪群よ陷る人が幾何あるか計られませんが故よ私は右様の事の起てから之を制せずして未だ起らざる前よ何とか方法を設けて無智の職民をして刑戮を免かれしめんことを希望しやす

何だか今日の演説は貧富平均論が多数を占て居て出る奴もく定り
 きつた事を繰返しく述べ立てるよは實に欠伸が出る煙併し此の不平演
 説は出席する辨士達の身も取ての貧富平均の緊要的だらうとがあま
 り不平ばかりでその塊が耳へ出来たのか余程嫌な事またよきを心持が
 するチト心を慰むる面白い辨士が現出すれば好いソラ出たく紅
 樓の君が自稱情婦は酷だ肖て居るぜ是は愉快く異よよく肖て居る
 が彼は僕の準備細君ではない彼は此間某樓から尾蓋下倉易へした手
 子鶴とかいふ妓とスー君は中々探索がよく行届く曾て名簿を携へ
 乍ら戸毎に北里の戸籍でも調べよ歩たことがあるのか否らずんば常
 よ細見でも暗誦して居ると見へる隨分好い容色だ併し今流
 行の束髪やぞよ洋服拵へでなく高兵庫よ往桶と来ては古風だ士夫れ
 丈は君のお説は同ずるが編妓がその服装のみ藝妓は横濱し權を異

似たどて矢張藝妓は藝妓さ彼は髪を見る所ありて流行風を學ばぬは
 感心だ所謂存羊の意があるのだらう君辨士が演じ出したぞ夫では聽
 かざるを得ずや何や演題は(婚妓を束縛するは牛馬と同一なりや)が銀
 釘流の艶書の如く馬鹿よ長いナア

皆はむ妾は朝は源氏の殿を送り夕は平氏の君を迎へてお客の横顔
 氣襪を取る浮き川竹の流れの身ですから床の中は痴話談言はよう
 知て居ますが演説せよと云六ツヶ敷の事は知りんせんで今日が始
 ていすから拙い所は堪忍してくんをまじ(喝采)那の妾達はこんなお
 耻しい業をして居りますから古より尋常の人間とは見做されず牛
 馬の如く束縛せられて居りました故籠の鳥などを稱へられました
 が日本よも亦沙布その人の如き御人物があらはして維新のとき人
 身を賣買頭束縛するは野蠻の事にて文明世界なるまじき事だ

さて娼妓の解放の令が出ました夫より娼妓は出稼となり娼間は貸
 坐敷で改まりまして娼妓は自儘に貸坐敷に於てお客の酒宴を侍り
 てお寝間のお伽を爲し貸坐敷はその名の如くたゞ座敷のみを貸す
 といふ法に成りましたが矢張り貸坐敷より前借をして何年とか年
 期を定めてその家の抱へ人と成りますから實際人身を束縛されて
 居るは古しと違ひありません併し一旦その身を抵當として前借し
 た以上はその期限間は自由權利と云ふものなく牛馬と全前だと致
 しませばその間は人類たるの責任なくて宜い譯けでありますワレ
 ヤクノウ

「チイ〜君曾て自由娼妓と評判の高たは彼かな〜否々那は河内屋の
 娼妓さん然らば娼妓も中々自由黨が現はれるナ今よ三里以外へ
 退去を命ぜらるゝだらう鳴呼吊すべし〜」ナニそんな心配も及ぶも

のか彼等の退去を命ぜられ、ば羽を生して飛び去るテイヤ僕は通人
 社會の爲よ吊するのサ夫れこそ紀憂と謂つべしシヤ

明治五年の娼藝妓解放令を讀みなんしたお人は知て御ざんせうが
 當時の御布令よ娼妓藝妓は人身の權利を失ふ者よて牛馬よ異なら
 ず人より牛馬よ物の返辨を求むる理なし故よ從來娼妓藝妓よ借す
 所の金額は一切債るべからずとありました去れば娼妓は務めの中
 は牛馬と全じきものよて人たるの責任が無きものです若し又責任
 があるとしましたなら夫丈けの自由權利と云ふものが無くては成
 ません尤も只今の娼妓は従前とは違ひ大よ自由を得ましたが矢張
 り娼妓は廓内よ押し込められてその範圍を出るよは中々手敷が掛
 りその上出たからと云つても相當の護衛兵ナラ宜う御坐います
 實は囚徒が押丁よ護送されて外役よ出るか又は牛馬が牽かれて市

よ出ると一般よて決して自由なり權利ありとは申されません娼妓は斯の如き有様ですが之よ反して藝妓は大よ自由を得て居ります藝妓とても全じく前借をして抱よなりませば尤も自前もありませぬが是は差し置て云ふのでその出稼たるや理娼妓と違ひありません然るよ娼妓は束縛を受て一步も外出するは自由よならず藝妓は氣儘勝手よ漫遊か出來るとは甚た偏頗極る譯ではありませんか是は藝妓は客の娉よ應するもの故左る束縛は出來ず藝妓は内よ居て客を迎へるのだから束縛しても宜いと云ふのですか内よ居ようが外へ出ようが其自由權利よ至ては全様でなければならぬ筈です又藝妓の藝を售るので娼妓の如く淫を賣らぬから夫れ丈け權利ありと云ふのですか當時の藝妓で淫を賣らないものゝ恐くはありますまい然らば藝娼とも向下優劣のありません夫れよ娼妓のみ牛馬全前よ束縛せられて墜も

自由權利なきのは情けない次第では御さんせんか果して娼妓は牛馬と全前だから束縛しても宜いと云ふ譯けなら只今も申た通り娼妓たるの間は人たるの責任もなく義務もなく只だ牛馬が使役さると全じく娼妓が職務たる箇中の事さへ尽したら宜いでせうヒヤく然らばお客から借た金は勿論務めの間出來た負債も何も蚊も返すよ及ばず義理も人情も入らず安氣なもので御さんす併し乍ら是は理論上の事よて實際左う往きません假設ば利がお客さんのお金を借たと假定しませう而してそのお客が若し對暮なお客で返金の督促でもしなさんした時利は牛馬と全じで人たるの責任がないものですから知りんせんと云ひましたならお客は忽ち怒て告訴しませう告訴されて見ませば知りんせんとは法律上云はれませんから之よ應じて其裁判を受けねばなりません斯く成りますときは既に

人たるの責任ありと云はねば成りませぬ斯る有様で見ませば實
 ん娼妓ほど憂辛悲いものはありませんほんよ苦海とはよう云ひま
 した「ヒヤ／＼皆さん不愜と思て下はい」妾達は謂は「牛馬の資格
 を以て人間の責任を帯び居るのですから至苦至難の地位でほんよ
 辛氣の事でありんす併し此の不自由不完全の社會よ生れて自由を
 得んと欲して反て罪を得て不自由な身よ成る人々がありますから
 私達ばかりで無いと諦めますがほんよ儘ならぬ浮世ごんす……
 と鼻紙を以て半ば顔よ當て演壇を下るその艶美さ高尾小紫も耻づべ
 く見へければ聴衆の顔色忽ち七面鳥と化け目を細ふするものあれば
 鼻の下を長くするものあり或は開た口を指もて寒ざ或は慄々時な
 らぬ垂氷を流すもありて種々なる變相は早取寫眞よ寫しなばあどけ
 繪の眞物が出来得べしと想像せられたり「君如何だへあんな妓を娯し

たら定めて愉快ぢやらう」否々娼妓を娯する目的は那の一方よ在るの
 だ然るよ彼が如き娼妓を娯せば矢鱈よ自由よならずして其目的を充
 分達せしめんから不愉快サ僕などは矢張り婦人の男子の命之れ従ふ
 と云も卑屈否柔順のものが好い故よ僕は純粹の男女異權論者ぢや「君
 の如き手前勝手な論者があるから道理は行はれない嗚呼無理が通れ
 ば道理引込むとは宜なり／＼と嘆するは口ばかりか夫かあらぬか知
 らねども無暗よ辨士の品評を下して蒼蠅い奴輩だと他の聴衆が不平
 を鳴しても不平は本會の主意なりと平氣の顔よて喋舌居たり此時表
 の方遶かよ騒がしく成るよ何事の起りしぞと聴衆一同よ立上れば數
 名の巡查躍り入り矢庭よ出席の辨士を執へ去るよぞスヲ集會條例違
 犯ぢや／＼と動揺めき立ち聴衆中よ過激の徒は巡查よ抗して辨士の
 拘引を拒まんよ煙草盆を投げ付るものあればステツキを振り廻すも

のありて彼是共よ打ち合ひ組合ふ上を下への騒動よ咄嗟と打驚き
眼を開けば是なん居士が南柯の一夢よて身の机上よ俯してあり嗚呼
不祥な夢を見た摸喰くと被ひ了りて時鳴鐘を見れば早や午後四
鐘なりエ、又一日の課程を忘れた哩と不平たらしく

版權登録

不平 腸ちぎり畢
演説

明治廿一年五月二十日印刷
明治廿一年五月二十二日出版

著者

谷口政徳

東京下谷區仲御徒町
三丁目四十八番地

發行者

辻岡文助

東京日本橋區横山町
三丁目貳番地

印刷者

幸田勝三

東京日本橋區本石町
一丁目一番地

のありて彼是共よ打ち合ひ組合ふ上を下への騒動よ咄陸と打驚き
眼を開けば是なん居士が南柯の一夢よて身の机上よ俯してあり嗚呼
不祥な夢を見た摸喰くと被ひ了りて時鳴鐘を見れば早や午後四
鐘なりエ、又一日の課程を怠た哩と不平たらしく

版權登録

不平 演説 腸ちぎり畢

明治廿一年五月二十日印刷
明治廿一年五月二十二日出版

著者

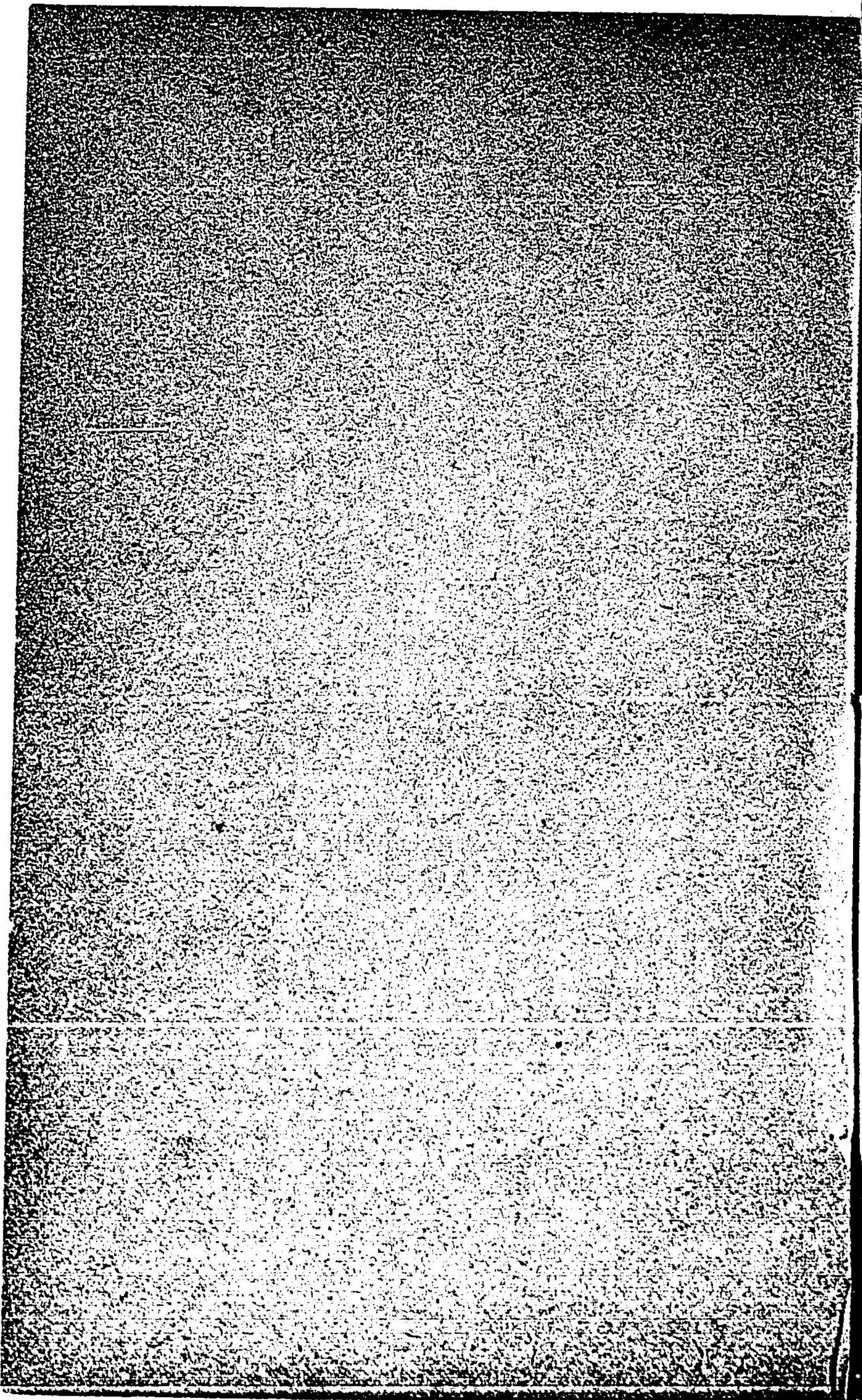
東京下谷區仲御徒町
三丁目四十八番地
谷口政徳

發行者

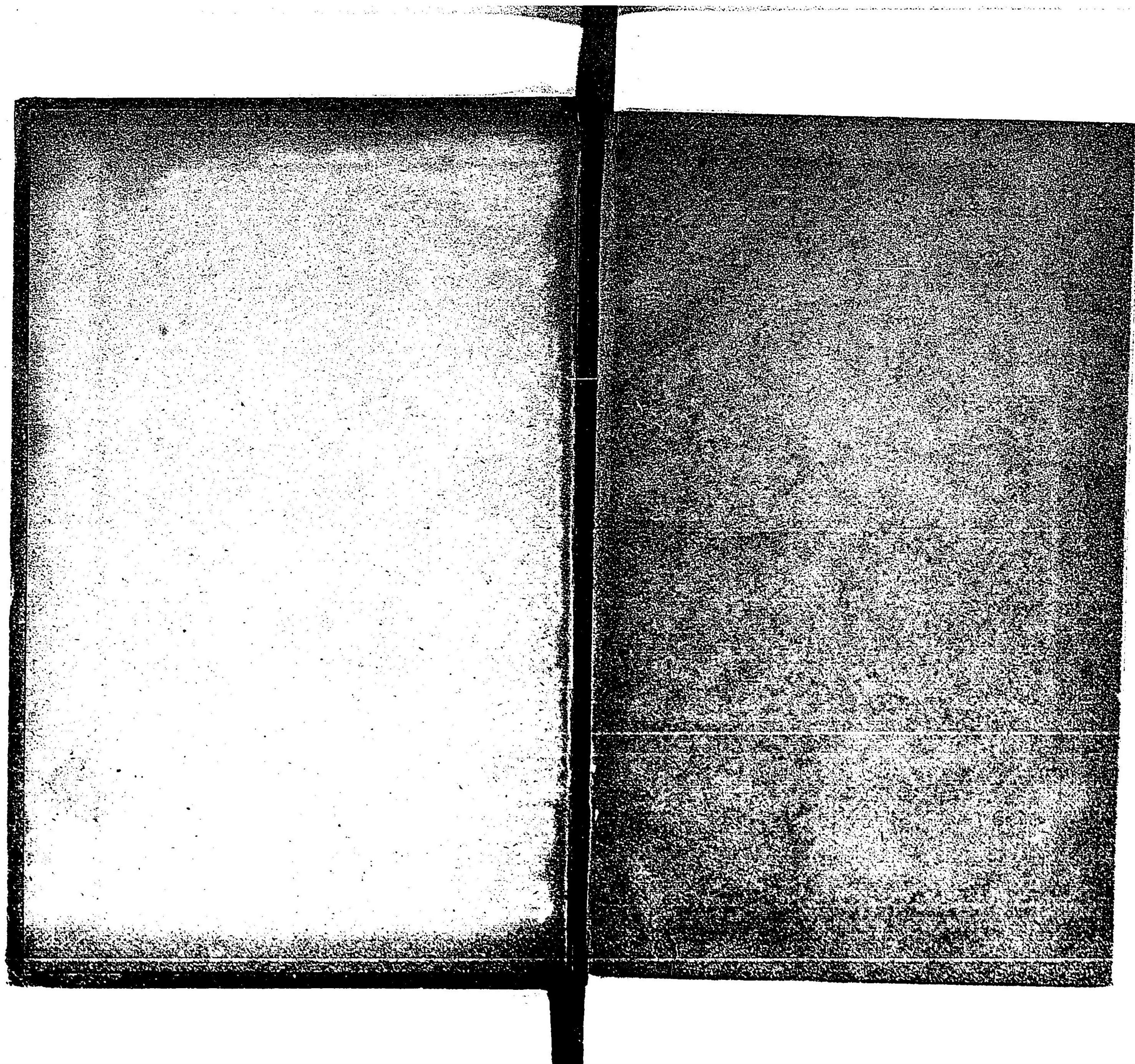
東京日本橋區横山町
三丁目貳番地
辻岡文助

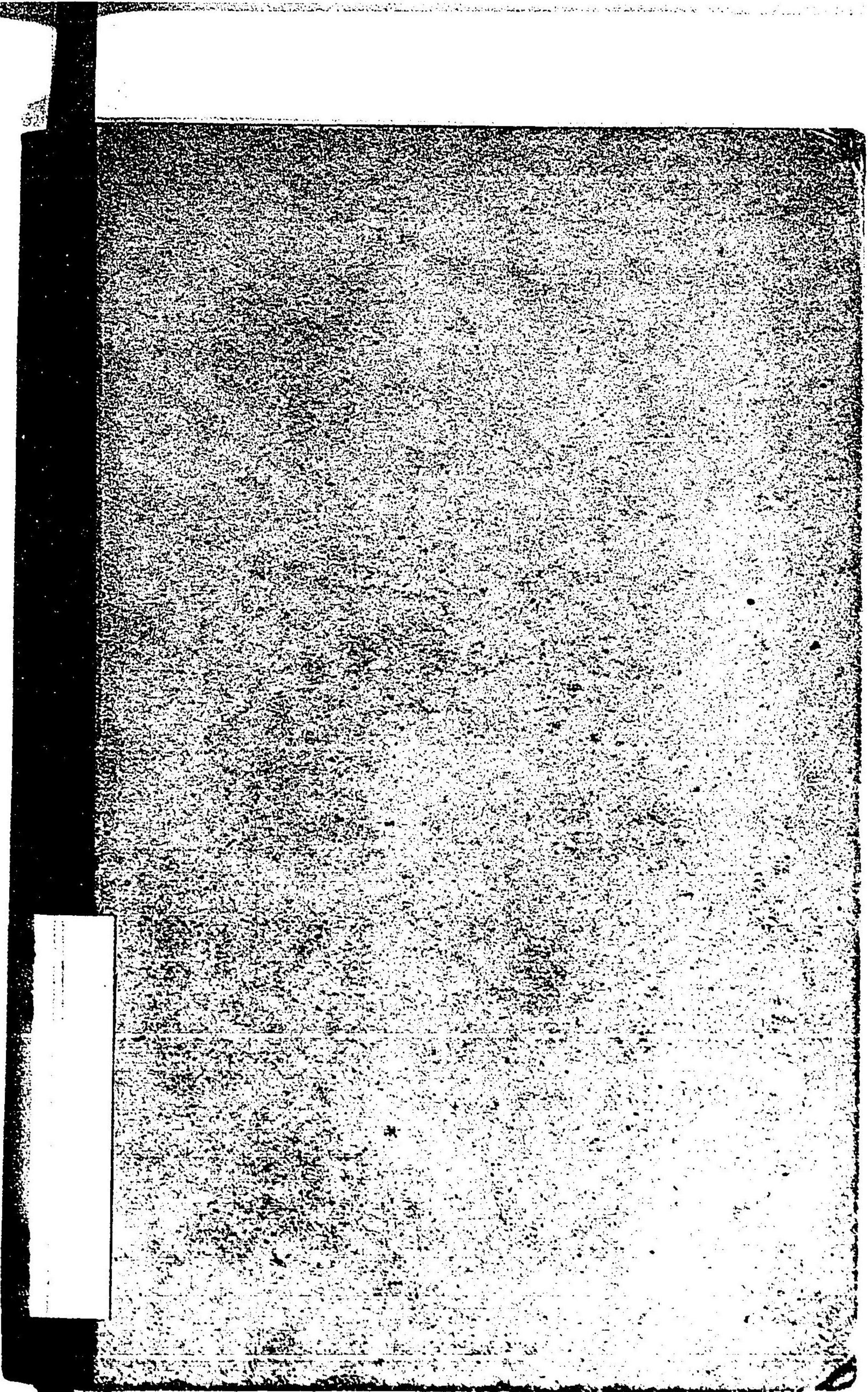
印刷者

東京日本橋區本石町
一丁目一番地
幸田勝三



明倫彙編
 家範典
 卷之四
 孝行
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百





特13

994



091795-000-8

特13-994

腹ちぎり

天明居士/著

M21

DBO-0310

